

別 海 町 議 会 会 議 録

第 1 号 (平成 22 年 12 月 14 日)

議事日程

日程第 1		会議録署名議員の指名
日程第 2		議会運営委員会報告
日程第 3		会期決定の件
日程第 4		諸般の報告
日程第 5		町長行政報告並びに提出議案の概要説明
日程第 6	議案第 84 号	平成 22 年度別海町一般会計補正予算 (第 4 号)
日程第 7	議案第 85 号	平成 22 年度別海町介護サービス事業特別会計補正予算 (第 3 号)
日程第 8	議案第 86 号	平成 22 年度町立別海病院事業会計補正予算 (第 2 号)
日程第 9	議案第 87 号	平成 22 年度別海町水道事業会計補正予算 (第 2 号)
日程第 10	議案第 88 号	公の施設に係る指定管理者の指定について
日程第 11	議案第 89 号	公の施設に係る指定管理者の指定について
日程第 12	議案第 90 号	公の施設に係る指定管理者の指定について
日程第 13	議案第 91 号	公の施設に係る指定管理者の指定について
日程第 14	議案第 92 号	公の施設に係る指定管理者の指定について
日程第 15	議案第 93 号	公の施設に係る指定管理者の指定について
日程第 16	議案第 94 号	公の施設に係る指定管理者の指定について
日程第 17	議案第 95 号	辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更について
日程第 18		一 般 質 問

10 番 戸 田 憲 悦 議員

8 番 松 原 政 勝 議員

2 番 沓 澤 昌 廣 議員

会議に付した事件

日程第 1		会議録署名議員の指名
日程第 2		議会運営委員会報告
日程第 3		会期決定の件
日程第 4		諸般の報告
日程第 5		町長行政報告並びに提出議案の概要説明
日程第 6	議案第 84 号	平成 22 年度別海町一般会計補正予算 (第 4 号)
日程第 7	議案第 85 号	平成 22 年度別海町介護サービス事業特別会計補正予算 (第 3 号)
日程第 8	議案第 86 号	平成 22 年度町立別海病院事業会計補正予算 (第 2 号)

日程第 9 議案第 87 号 平成 22 年度別海町水道事業会計補正予算（第 2 号）
 日程第 10 議案第 88 号 公の施設に係る指定管理者の指定について
 日程第 11 議案第 89 号 公の施設に係る指定管理者の指定について
 日程第 12 議案第 90 号 公の施設に係る指定管理者の指定について
 日程第 13 議案第 91 号 公の施設に係る指定管理者の指定について
 日程第 14 議案第 92 号 公の施設に係る指定管理者の指定について
 日程第 15 議案第 93 号 公の施設に係る指定管理者の指定について
 日程第 16 議案第 94 号 公の施設に係る指定管理者の指定について
 日程第 17 議案第 95 号 辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更について
 日程第 18 一 般 質 問

10 番 戸 田 憲 悦 議員

8 番 松 原 政 勝 議員

2 番 沓 澤 昌 廣 議員

出席議員（18 名）

1 番 西 原 浩	2 番 沓 澤 昌 廣
3 番 福 原 春 夫	4 番 安 部 政 博
5 番 瀧 川 榮 子	6 番 山 田 信
7 番 丹 羽 勝 夫	8 番 松 原 政 勝
9 番 戸 田 博 義	10 番 戸 田 憲 悦
11 番 中 村 忠 士	12 番 佐 藤 初 雄
13 番 池 田 幸 雄	14 番 安 田 輝 男
15 番 山 崎 賢 一	16 番 佐々木 春 男
副議長 17 番 横 堀 昭 康	議長 18 番 渡 邊 政 吉

欠席議員（0 名）

出席説明員

町 長 水 沼 猛	副 町 長 磯 田 俊 夫
教 育 長 山 口 長 伸	代表監査委員 鈴 木 英 世
監 査 委 員 下川原 洋	選 管 委 員 長 高 崎 好 蔵
教 育 委 員 長 今 西 和 雄	総 務 部 長 小 守 正
福 祉 部 長 田 村 秀 男	産 業 振 興 部 長 飯 島 孝 二
建 設 水 道 部 長 田 中 忠 敏	教 育 部 長 根 本 幸 三
監査委員事務局長 半 田 雅 代	農 委 事 務 局 長 森 本 哲 男
病 院 事 務 長 真 籠 毅	会 計 管 理 者 上 月 昭 彦
総 務 部 次 長 有 田 博 喜	福 祉 部 次 長 笠 原 悦 雄
福 祉 部 次 長 守 川 昇	福 祉 部 次 長 松 本 光 永
産 業 振 興 部 次 長 土 井 一 典	建 設 水 道 部 次 長 大 島 登
総 務 課 長 宮 部 正 好	総 合 政 策 課 長 有 田 博 喜
総 務 課 参 事 佐 藤 則 夫	財 政 課 長 竹 中 仁
税 務 課 長 干 場 俊 昭	福 祉 課 長 松 本 光 永

福祉部付課長 松 壽 和 広
 福祉課参事 清 水 純 夫
 特老施設長 村 井 勉
 老健事務長 清 尾 昌 弘
 環境特別推進室長 佐 藤 康 男
 商工観光課長 岡 田 一 芳
 事業課長 天 田 豊
 上下水道課長 永 野 寛 昭
 病院事務課長 佐 藤 一 彦
 学務課参事 今 井 道 春
 図書館長 中 川 浩

町民課長 斎 藤 英 彦
 保健課長 佐 藤 秀 明
 デイサービスセンター施設長 中 澤 信 明
 農政課長 山 崎 茂
 水産みどり課長 藤 原 繁 光
 管理課長 木 村 功 男
 事業課技術長
 (病院建設準備室長) 山 岸 英 一
 出納室長 相 山 一 晴
 学務課長 佐 藤 英 敏
 生涯学習課長 下 地 哲

議会事務局出席職員

事務局長 佐 藤 次 春

主 幹 山 田 一 志

会議録署名議員

3 番 福 原 春 夫
 5 番 瀧 川 榮 子

4 番 安 部 政 博

開会 午前 9時55分

開会宣告

議長（渡邊政吉君） おはようございます。少し時間前でございますけれども、皆さんおそろいでございますので、始めたいと思います。

なお、会議に入ります前に申し上げます。

今会期中は、広報及び報道関係者の写真撮影を許可しておりますので、申し上げておきます。

ただいまから、平成22年第4回別海町議会定例会を開会いたします。

ただいま出席している議員は、18名であります。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

日程第1 会議録署名議員の指名

議長（渡邊政吉君） 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第119条の規定により、議長において指名いたします。

3番福原議員、4番安部議員、5番瀧川議員、以上3名を指名いたします。

日程第2 議会運営委員会報告

議長（渡邊政吉君） 日程第2 議会運営委員長から、委員会の協議概要について報告があります。

なお、本件は報告のみであります。

議会運営委員会委員長。

議会運営委員会委員長（佐々木春男君） それでは、議会運営委員会の報告をいたします。

12月2日と12月10日に開催いたしました議会運営委員会で、本定例会にかかわる運営について協議をいたしましたので、その内容について御報告を申し上げます。

本定例会に町長から提出されております案件は、全部で12件であります。

提出されました議案は、平成22年度補正予算4件、公の施設に係る指定管理者の指定についてが7件、辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更が1件であります。

これら提出案件のすべてについて、委員会の付託は省略すべきものと決定をいたしました。

次に、一般質問であります。

通告を受理しております一般質問は、戸田憲悦議員、松原議員、沓澤議員、中村議員、西原議員、佐藤議員、丹羽議員、瀧川議員の8名です。戸田議員が一括質問方式で、そのほかは全員一問一答方式であります。質問の順番は、会議規則等運用規程に基づき、通告順に行うことといたしました。

また、議員各位、理事者におかれましては、町民にわかりやすい質問や答弁に心がけていただき、活発な政策議論が行われるとともに、円滑な議会運営について配慮をお願いいたします。

次に、請願・陳情等についてであります。

受理いたしました請願・陳情等にかかわる対応について慎重に協議をいたしました。そ

の結果につきましては、お手元に配付したとおりでございます。

なお、提出された陳情等の写しは、議員控え室で閲覧できますので、賛同される議員は議員発議により提出をお願いいたします。

次に、議員・委員会提出案件であります。

現在、予定されております議員提出案件は3件であります。まず、「メドページェフロシア大統領等の北方領土訪問に抗議を求める意見書」を戸田博義議員から、「公立義務教育諸学校の教職員定数等に関する意見書」を松原議員から、「大幅増員と夜勤改善で安全安心の医療・介護を求める意見書」を沓澤議員から、それぞれ提出いたします。

また、委員会提出案件は2件が予定されています。

1件目の「議長の議会招集権及び地方議会議員の位置づけの明確化を求める意見書」については佐々木議会運営委員会委員長から、2件目の「B型肝炎問題の早期全面解決を求める意見書」については安部文教厚生常任委員会委員長から、いずれも最終日に提案されることになっております。

次に、会期及び議事日程であります。

本定例会の会期は、12月14日から17日までの4日間とし、1日目は町長提出議案の内容説明、質疑を行い、その後、3人の一般質問を行うことといたしました。2日目は、残された5人の一般質問を行います。3日目は休会とし、各常任委員会を開催いたします。最終日の4日目は、町長提出議案の討論、採決を行い、その後、議員及び委員会提出案件等の内容説明、質疑、討論、採決などを行う日程とすべきものと決定をいたしました。

また、本年第3回定例会において、平成21年度各会計決算審査特別委員会に付託いたしました、平成21年度各会計決算の認定第1号から第9号については、最終日に委員会報告を受け、その後、討論、採決をすることといたしました。

なお、本定例会におきましても休会日を1日設けております。各常任委員会での議案審査や討議の時間を十分に確保できるよう配慮したものであります。

委員会の運営等につきましては、委員長を初め各議員の御理解と御協力をお願いいたします。

また、いわゆる反問権についてですが、既に御承知のとおり、委員会条例及び会議規則を改正し、町長等に付与しております。

反問制度は、議員の質問に対して論点、争点を明確にするためのものであり、質問、回答事項を十分精査し、より質の高い議論を展開することが期待されているものであります。

このことにつきましても、町長を初め執行機関及び議員各位に趣旨を十分御理解いただきますよう、お願い申し上げます。

以上、議会運営委員会で協議いたしました内容についての報告といたします。

日程第3 会期決定の件

議長（渡邊政吉君） 日程第3 会期決定の件を議題といたします。

お諮りいたします。

この定例会の会期は、本日から12月17日までの4日間といたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、会期は、本日から１２月１７日までの４日間と決定いたしました。

日程第４ 諸般の報告

議長（渡邊政吉君） 日程第４ 諸般の報告を行います。

諸般の報告は、お手元に配付のとおりであります。

日程第５ 町長行政報告並びに提出議案の概要説明

議長（渡邊政吉君） 日程第５ 町長から行政報告並びに提出案件の概要について説明があります。

町長。

町長（水沼 猛君） おはようございます。

本日、平成２２年第４回の定例町議会を招集させていただきました。議員各位におかれましては、年末の大変お忙しい中御出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

開会に当たりまして、行政報告並びに提出案件の概要説明を申し上げます。

まず、行政報告でございますが、産業の動向についてでございます。

酪農・畜産についてでございますが、酪農・畜産の情勢につきましては、町内の生乳生産は、１月から１０月末で前年対比９９．５％、４０万２、０００トン、生産額では前年対比９７％の３２９億７、０００万円と、前年実績を下回っております。

乳量が前年を下回っている要因については、昨年の天候不順により基礎飼料の調整が悪かったことが一因と考えられます。また、夏の猛暑の影響によりまして乳牛のダメージが大きく、１０月からは前年対比９７．９％と大幅に乳量が減少している状況であります。今後においても乳量増は期待できない状況にあります。

乳牛の受胎率についても、秋以降低下傾向にあることから、来年度の生産量への影響が心配されるところでございます。

乳代については、４月からプール乳価が４円２０銭引き下げられた上に、夏場の猛暑の影響により乳成分の低下から、さらに５０銭程度乳価が下がる見通しでありまして、合わせると５円程度の減少となる見込みでございます。

本年度の牧草収量調査の結果ですが、１０アール当たり一番草と二番草を合わせて３、８２６キログラムと平年並みの収量でございました。

飼料用トウモロコシの収量については、１０アール当たり露地栽培で４、３８４キログラム、マルチ栽培では４、９６３キログラムと平年の９５％程度の収量となっております。

夏の天候がよかったことで、牧草、飼料用トウモロコシともに乾物量については平年を上回っております。

町内農協の１１月末での収支状況でございますが、預かりが３６７件、７億７、５９１万６、０００円、貸し越しが４１１件、２４億６、８５９万円となっております。貸越額が１６億９、２６７万４、０００円上回っており、非常に厳しい状況となっております。

精算方法ですが、貯金現金ほかで１７億円程度、緊急支援資金等の借り入れで７億円超の予定となっております。

次に、水産業についてでございますが、アキサケ定置網漁は前年を上回る来遊予想の中

で、9月1日着業いたしました。が、来遊予測をはるかに下回り、例年より早く11月20日に終了しております。

その結果、数量では前年対比、別海漁協が47%、野付漁協で67%、町全体では62%の5,885トン、金額では前年対比68%の20億7,700万円と大きく前年を下回ったところでございます。

報道等にありますように、高水温の影響で魚群の岸への寄りつきが少なかったことから、過去25年を見ましても、最低の水揚げとなり、漁家経営は大変厳しい状況でございます。

このことから、アキサケ不漁に対する特別支援について、両漁協より強い要望があったところでもございます。

町といたしましては、本年の不漁状況は大変厳しいものであることから、急遽、漁業対策を実施すべく、本定例会に予算計上をしたところでございますので、御理解を賜るようお願いをいたしたいと思っております。

また、各漁協において、漁業経営の健全化を図るため資金の融通も検討しているのとっておりますので、町といたしましても、今後の漁業情勢を踏まえて、さらなる支援対策について検討してまいりたいと考えております。

12月1日から始まりました冬季のホタテ漁につきましては、現段階では好調に推移をいたしております。歳末商戦も控えておりますので、今後の価格動向につきましても大いに期待をいたしているところでございます。

次に、観光についてですが、本年11月末現在の本町の観光入り込み数は、5月、6月の好天に恵まれたイベント効果があったものの、春先の天候不順や口蹄疫などの影響などから、前年比2.8%減の23万9,400人にとどまっており、野付半島についても、前年比4.2%減の12万9,000人となっております。

また、ふれあいキャンプ場の利用者数は、温泉施設の営業再開などにより増加をしております。

このような状況の中、10月10日、「第50回西別川あきあじまつり」を開催したところでありますが、あいにくの雨にもかかわらず、多くの来場者があり、改めて西別川のブランド力に驚かされたところであります。

当町の観光客の入り込みは依然として減少しておりますが、今後とも通過型観光から体験や研修・修学旅行などの体験型観光を促進し、入り込み数の増加に取り組んでいく必要性を感じているところでございます。

次に、商工業についてですが、商工業につきましては、長引く景気低迷の影響から、依然として厳しい経営環境に置かれていると承知をいたしております。

町といたしましても、昨年、別海町中小企業振興基本条例を制定し、中小企業振興のための指針を、商工会や中小企業家同友会の理解、協力を得ながら定める作業を進めております。

そのような状況下で、商工会青年部や商工業振興協同組合などが魅力ある商店街づくりをするため積極的に活動しており、中小企業家同友会なども地域を元気にするさまざまな取り組みに参加をしておりますので、地域経済活性化の観点からも期待をいたしているところでございます。

以上、行政報告とさせていただきます。

次に、本定例会に提出をさせていただきました議案の概要について、御説明を申し上げます。

ます。

このたび提出させていただきました案件につきましては、議案 12 件でございます。

議案第 84 号から議案第 87 号までの 4 件につきましては、平成 22 年度の各会計の補正予算でございます。一般会計で 7,790 万円を減額補正するほか、介護サービス事業特別会計で 1,446 万円、病院事業会計で 8,994 万円、水道事業会計で 628 万円をそれぞれ減額補正するものでございます。

議案第 88 号から議案第 94 号までの 7 件につきましては、「公の施設に係る指定管理者の指定について」でございます。指定の期間が平成 23 年 3 月 31 日をもって満了する 7 つの施設について、平成 23 年 4 月 1 日から、引き続き指定管理者として指定をいたしたいので、議会の議決を求めるものでございます。

最後になりますが、議案第 95 号は、「辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更について」でございます。さきに議決をいただいております中春別辺地の公共的施設の総合整備計画の第 1 次の変更について、議会の議決を求めるものでございます。

以上、全部で 12 件の案件を提出させていただきましたが、すべて本定例会において御審議をいただき、御決定を賜りますようお願いを申し上げます、議案の概要説明といたします。どうぞよろしくお願いをいたします。

議長（渡邊政吉君）　ここで諮りいたします。

本定例会に提出されております、日程第 6　議案第 84 号から日程第 17　議案第 95 号までの 12 件については、会議規則第 39 条第 3 項の規定に基づき、委員会の付託は省略いたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君）　御異議なしと認めます。

したがって、日程第 6　議案第 84 号から日程第 17　議案第 95 号までの 12 件については、委員会の付託は省略することに決定いたしました。

日程第 6　議案第 84 号

議長（渡邊政吉君）　日程第 6　議案第 84 号平成 22 年度別海町一般会計補正予算を議題といたします。

内容について説明を求めます。

財政課長。

財政課長（竹中　仁君）　議案第 84 号の内容説明を申し上げます。

別冊の別海町一般会計補正予算書の 1 ページをお開きください。

平成 22 年度別海町一般会計補正予算（第 4 号）。

平成 22 年度別海町一般会計の補正予算（第 4 号）は、次に定めるところによる。

第 1 条、歳入歳出予算の補正。

歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ 7,790 万円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ 153 億 8,680 万円とする。

2 項、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第 1 表　歳入歳出予算補正」による。

第 2 条、債務負担行為。

地方自治法第 214 条の規定により債務を負担する行為をすることができる事項、期間及び限度額は、「第 2 表　債務負担行為」による。

第3条、地方債の補正。

地方債の変更は、「第3表 地方債補正」による。

2ページをお開きください。

第1表、歳入歳出予算補正。補正額の欄で申し上げます。

まず、歳入です。

12款分担金及び負担金、2項で550万円の減。

13款使用料及び手数料、1項で846万3,000円の増。

14款国庫支出金、1項から3項で328万7,000円の減。

15款道支出金、1項から3項で2,747万8,000円の減。

17款寄附金、1項で43万円の増。

18款繰入金、1項で340万円の減。

20款諸収入、5項で3,392万8,000円の減。

21款町債、1項で1,320万円の減。

歳入合計で、7,790万円を減額し、歳入予算の総額を153億8,680万円とするものです。

続きまして、3ページの歳出です。

1款議会費、1項で13万1,000円の増。

2款総務費、1項から4項で511万9,000円の減。

3款民生費、1項と2項で1,638万8,000円の増。

4款衛生費、1項と2項で6,816万3,000円の増。

5款労働費、1項で417万6,000円の減。

6款農林水産業費、1項から4項で4,209万4,000円の減。

7款商工費、1項で1,000万円の増。

8款土木費、4ページにわたりまして、2項と4項で3,096万5,000円の減。

4ページで、9款消防費、1項で2,069万3,000円の減。

10款教育費、1項から6項で847万5,000円の減。

13款給与費、1項で6,106万円の減。

歳出合計で、7,790万円を減額し、歳出予算の総額を153億8,680万円とするものです。

次に、5ページで、第2表、債務負担行為です。

債務負担行為は6件で、1件目は、公の施設に係る指定管理者に対する委託料、別海町ケアハウスみどり野で、期間は平成23年度から平成27年度までの5年間、限度額は1億9,492万9,000円です。

2件目も公の施設に係る指定管理者に対する委託料で、別海町高齢者生活ハウス。期間は同じく平成23年度から平成27年度までの5年間、限度額は7,734万5,000円です。

3件目は、畜産経営維持緊急支援資金利子補給補助金。期間は平成23年度から平成47年度までの25年間、限度額は3,241万円で、内容といたしましては、北海道が0.12%、町が0.06%、ホクレン等の団体と農協がおのの0.03%の利子補給を行うものです。

4件目は、公の施設に係る指定管理者に対する委託料で、別海町ウニ種苗育成センター。期間は平成23年度から平成27年度までの5年間、限度額は404万5,000

円です。

5 件目も公の施設に係る指定管理者に対する委託料で、別海町ニシン種苗生産センター。期間は平成 23 年度から平成 27 年度までの 5 年間、限度額は 478 万円です。

最後に 6 件目は、西春別 17 号線改良舗装工事。期間は平成 23 年度で、限度額は 4,100 万円です。

いずれも契約や協定の締結により、翌年度以降の支出債務が発生するため、その期間と限度額を定めるものでございます。

6 ページをお開きください。

第 3 表、地方債補正です。

補正内容は変更で、起債の目的、西春別中西別線改良舗装事業の補正前限度額 1,040 万円を 920 万円に減額。公営住宅建設事業は、補正前の限度額 8,000 万円を 6,800 万円に減額するものです。いずれも事業費または事業量の確定によるもので、起債及び償還の方法、利率には変更がございません。

地方債の合計では、補正前の限度額 12 億 5,249 万 7,000 円から 1,320 万円を減額し、補正後の限度額を 12 億 3,929 万 7,000 円とするものです。

次に、事項別明細書の 1、総括については省略をさせていただきます、9 ページの歳入から御説明いたします。9 ページをお開き願います。

歳入歳出につきましては、款項の金額を省略し、目の補正額の欄で申し上げます。

2、歳入。

12 款分担金及び負担金 2 項 3 目農林水産業費負担金、550 万円の減。事業量確定による道営草地整備事業担い手中核型負担金の減額です。

13 款使用量及び手数料 1 項 3 目農林水産使用料、846 万 3,000 円の増。育成牧場夏期預託料の増によるものです。

次に 10 ページです。

14 款国庫支出金 1 項 2 目民生費国庫負担金、975 万 5,000 円の増。子ども手当負担金の増が主なものです。

3 目衛生費国庫負担金、213 万 3,000 円の増。本目新設で、助成制度決定による新臨時接種負担金の計上です。

2 項 1 目民生費国庫補助金、23 万 6,000 円の増。

4 目土木費国庫補助金、1,473 万 3,000 円の減。事業量、事業費の確定による補助金、交付金の減額です。

3 項 1 目総務費国庫委託金、37 万 5,000 円の増。

2 目民生費国庫委託金、105 万 3,000 円の減。これにつきましては、交付額確定による子ども手当事務費委託金の減額です。

11 ページで、15 款道支出金 1 項 1 目民生費負担金、162 万 7,000 円の増。国庫負担金にもございますが、子ども手当負担金の増が主なものです。

2 目衛生費負担金、106 万 6,000 円の増。本目新設で、こちらも国庫負担金とあわせまして、新臨時接種負担金の増額です。

2 項 2 目民生費補助金、11 万 8,000 円の増。

3 目衛生費補助金、30 万円の増。エゾシカ被害対策にかかわる地域づくり総合交付金です。

4 目労働費補助金、417 万 6,000 円の減。緊急雇用創出推進事業補助金の額の確

定によるものです。

5目農林水産業費補助金、3,292万2,000円の減。対象面積確定による中山間地域等直接支払交付金の減、そのほか事業量の確定による補助金の減や、12ページになりますが、エゾシカ被害対策にかかわる地域づくり総合交付金の増額でございます。

12ページで、3項1目総務費委託金、650万9,000円の増。道知事及び道議会議員選挙費委託金の増です。

次に、17款寄附金1項1目一般寄附金、43万円の増。

18款繰入金1項1目財政調整基金繰入金、340万円の減。財政調整基金は、今回の減額補正によりまして、予算に繰り入れ計上しない基金残高が14億3,477万2,000円となります。

13ページです。

20款諸収入5項5目雑入、3,392万8,000円の減。畜産担い手育成総合整備事業再編整備型償還収入の減。工事契約の解除によります前払保証金収入、契約保証金収入の増が主なものです。

21款町債1項3目土木債、1,320万円の減。事業量や事業費の確定による減額でございます。

以上で歳入を終わります。

続きまして、15ページをお開きください。

3、歳出です。

1款議会費1項1目議会費、13万1,000円の増。

次に16ページです。

2款総務費1項1目一般管理費、126万7,000円の増。庁舎内の払い出し用物品等にかかわる消耗品の増が主なものです。

2目職員管理費、369万4,000円の増。今後の支出見込みによる社会保険料、嘱託職員賃金の増額です。

5目財産管理費、317万8,000円の減から、8目車両管理費、140万7,000円の減、17ページに行きまして、10目交通安全対策費、2万5,000円の減、これまでは執行残による減額です。

11目環境対策費、350万円の増。設置希望者増により太陽光発電システム補助金について、100キロワット相当を増額するものです。

16目諸費、280万円の減。今後支出見込み額精査による奨学資金の減額です。

2項1目税務総務費、143万円の減。徴収員賃金の減額です。

2目賦課徴収費、448万円の減。これにつきましては、中山間事業で構築したデータを共同利用することで、市街地宅地評価の業務委託料を減額するのが主なものです。

次に18ページです。

3項1目戸籍住民基本台帳費、151万2,000円の減。住民基本台帳ネットワーク関連機器の共同調達による機器等購入費の減額が主なもので、その他執行残の減額です。

4項3目知事及び道議会議員選挙費、18万円の増。

4目町長及び町議会議員選挙費、104万円の増。

次、20ページです。

3款民生費1項2目老人福祉費、729万8,000円の減。給与費の減額等による介護サービス事業特別会計繰出金の減額が主なものです。

5目障害者福祉費、170万7,000円の増。補装具等給付の増です。

8目後期高齢者医療費、332万円の増。療養給付費負担金の増額です。

2項1目児童福祉総務費、114万4,000円の増。建設中の児童館使用備品にかかわる器具費を増額し、そのほか執行残と今後支出見込額精査による減額を行うものです。

次に、21ページの2目児童措置費、1,428万7,000円の増。子ども手当費の増額です。

4目保育園費、260万円の増。

5目へき地保育園費、19万8,000円の増。

6目児童館費、26万円の増。

8目子育て支援センター費、17万円の増。いずれも今後の支出見込み額精査による社会保険料、人夫賃の増額が主なものです。

22ページです。

4款衛生費1項1目保健衛生総務費、1,000円の減。

2目予防費、80万6,000円の減。

3目環境衛生費、46万8,000円の減。

23ページで、4目健康管理費、271万円の減。

5目エキノコックス症対策費、12万8,000円の減。ここまでは執行残または支出見込み額精査による減額です。

7目保健センター費、26万8,000円の増。支出見込み額精査による一部増額と、24ページ上段になりますが、執行残の減額です。

24ページに入りまして、9目病院費、8,705万3,000円の増。医業収益が減収見込みとなることによる町立別海病院事業会計負担金の増額が主なものです。

2項1目清掃総務費、41万8,000円の減。

2目じん芥処理費、182万7,000円の減。

3目じん芥処理場費、623万6,000円の減。

5目し尿処理場費、656万4,000円の減。入札残など、いずれも執行残の減額でございます。

25ページで、5款労働費1項1目労働諸費、417万6,000円の減。緊急雇用対策創出事業業務委託料の執行残です。

次に26ページをお開きください。

6款農林水産業費1項2目農業総務費、95万4,000円の減。一部催事の中止によります産業祭実行委員会交付金の減が主なものです。

3目農業振興費、3,640万2,000円の減。対象面積確定による中山間地域等直接支払交付金の減が主なものです。

4目畜産業費、861万4,000円の増。計根別農協が購入いたしますミルクローリー車導入事業にかかわる補助金が主なものです。

5目育成牧場費、10万6,000円の減。27ページ中ほどまで、社会保険料など今後支出見込額の精査等による減額です。

27ページの7目農地交換整備事業費、244万3,000円の減。今年度事業量確定による減額です。

2項1目広域農業推進費、5,219万3,000円の減。28ページにまたがりませんが、道営草地整備事業、畜産担い手総合整備事業の事業量が確定したことによる減額が主

なものです。

3 項 1 目林業総務費、3 万 2,000 円の増。

2 目林業振興費、135 万 8,000 円の増。エゾシカによる森林被害対策として、駆除にかかわる業務委託料の増額をするのが主なものです。

4 項 2 目水産業振興費、4,000 万円の増。アキサケ不漁特別対策事業補助金の増額です。

29 ページで、7 款商工費 1 項 1 目商工業振興費、1,000 万円の増。これにつきましては、地元企業が施工するエコ型住宅の新增改築に助成する地域貢献中小企業支援事業補助金の増額です。

8 款土木費 2 項 4 目防衛施設周辺道路整備事業費、671 万 4,000 円の減。事業費の確定による減額です。

4 項 1 目住宅管理費、13 万 7,000 円の減。

続いて 2 目公営住宅建設事業費、2,411 万 4,000 円の減。事業量の確定により減額するものです。

31 ページ。

9 款消防費 1 項 1 目消防費、2,079 万 9,000 円の減。退職手当組合事前納付金精算及び人件費等、今後支出見込額精査により、根室北部消防事務組合負担金が減となるものです。

2 目災害対策費、10 万 6,000 円の増です。

32 ページをお開きください。

10 款教育費 1 項 2 目事務局費、9 万 7,000 円の増。

3 目教育指導費、18 万 8,000 円の減。

4 目奨学金、408 万円の減。いずれの増減も支出見込み額の精査によるものです。

2 項 1 目学校管理費、208 万 6,000 円の増。

33 ページで、2 目教育振興費、60 万 5,000 円の減。

3 目通学対策費、43 万 4,000 円の減。支出見込み額の精査と執行残によるものです。

3 項 1 目学校管理費、55 万 4,000 円の増。

2 目教育振興費、75 万 9,000 円の減。

3 目通学対策費、23 万 4,000 円の減。同じく今後の支出見込み額精査等によるものです。

4 項 1 目幼稚園管理費、34 ページの上段までで 66 万 7,000 円の増は、支出見込み額の精査による増額です。

34 ページで、5 項 4 目青少年教育費、13 万 2,000 円の減は執行残です。

35 ページに入りまして、5 目中央公民館費、47 万 4,000 円の減。6 目東公民館費、43 万 5,000 円の減。7 目西公民館費、42 万 7,000 円の減は、いずれも執行残等によるものです。

36 ページをお開きください。

6 項 1 目保健体育総務費、36 万 1,000 円の増。冬季の派遣見込みを精査しまして、団体等派遣費補助金の増額を行うものが主なものです。

2 目学校給食費、410 万 3,000 円の減。人員減による嘱託職員賃金の減額ほか、執行残等によるものです。

3 目へき地学校保健管理費、15万3,000円の減。

4 目総合スポーツセンター費、21万6,000円の減。いずれも執行残です。

37 ページで、13 款給与費1 項1 目給与費、6,106 万円の減。人事院勧告に基づく給与条例の改正により、一般職給与などの減額を行うものです。

これで歳出予算の内容説明を終わります。

次に、給与費明細書について御説明いたします。39 ページをお開きください。

補正予算給与費明細書です。1 の特別職ですが、表下段の比較の欄で御説明いたします。

最下段になります。比較の計の欄で、職員数に増減はございません。給与費で報酬が14万6,000円の減。給与費計の欄、同じく14万6,000円の減。共済費に増減はなく、合計で14万6,000円の減となるものです。

次に、40 ページの一般職です。

一般職の総括の表で、下段の比較の欄で御説明いたします。ページ中ほどです。

比較で、職員数は4名の減。給与費欄で、給料が2,300万円の減、職員手当が2,200万円の減、給与費計で4,500万円の減となります。共済費が1,580万円の減となりまして、合計で6,088万円の減となるものです。

40 ページ下の表が職員手当の内容で、期末手当、勤勉手当でのおおの減額となっております。

41 ページは、給料及び職員手当の増減額の明細で、今回補正いたします給料、職員手当の内容について説明をしております。

42 ページをお開きください。

こちらは給料及び職員手当の状況で、44 ページまでにわたりまして、各項目について記載をしておりますけれども、内容については説明を省略させていただきます。

以上で、議案第84号一般会計補正予算の内容説明を終わります。

議長（渡邊政吉君） 議案第84号の内容説明が終わりましたので、本件の質疑を行います。

質疑に入ります。

9 番戸田議員。

9 番（戸田博義君） それでは、2 点ほどお伺いをしたいと思います。

ページが28 ページの水産業費、4,000 万円でございますけれども、これは協議会でも、アキサケの付加価値向上事業、それからヒトデ駆除事業と、こういうふうになってございまして、別海、野付、2,000 万円、2,000 万円だよということをお聞きしているところでございます。

ヒトデの量というのは、根室管内は、平成16年には7,000トンぐらいのヒトデが揚がっているわけございまして、オホーツク海、宗谷から網走まででは大体年間2,000トンぐらいと。根室海域が特に多いわけございまして、今、稼働している水産系のリサイクルセンター、こしは特に今揚がっているヒトデも多いようでございまして、また根室も始まるというようなこともお聞きをしているところでございますけれども、その辺、数量が多いということでパッティングはしないのかなと。そこら辺は調べて事業を組んだものと、このように思いますけれども、どれぐらいのヒトデの量を揚げるのか。また、パッティングした場合、釧路まで、また網走まで運ばなければならないというような、こういうことになりますと、事業費に大きな影響を与えるというふうにも思っており

ますので、その辺の考え方はどうなのかということが1点目でございます。

このヒトデにつきましては、不思議な生物でございまして、世界の生物の中で、年齢がわからないという生物はヒトデだけだそうございまして、たくさん食べたものが個体が大きくなるというような不思議な生物だそうでございます。いまだに年齢を見られないというような、そういう生物でございます。

あと、4,000万円の補助率ですね、それが第1点目でございます。

それから、第2点目でございますけれども、町長からもアキサケの今年度の報告がございましたけれども、ここに不漁特別対策事業と書いていますけれども、不漁なんていうものでなくて、凶漁と言ってもいいのではないかなというような、そんな数字になっているところでございます。

サケの回帰率については、平成16年に最高の6,000万尾、道内の沿岸に来遊してございます。この年が最高でございまして、その後は回帰率がどんどんどんどん下がっていったと。特に、野付の灯台から納沙布の南部資源と言われる資源が全くもって予想に反して少ないという、第1次産業としては本当に危機の状況だと言わざるを得ないところでございます。

昨年も最低の年かなと思ったら、ことはそれに加えてまだ下がったと、こんなようなことで、数字的には町長のほうからおっしゃいましたので、言いませんけれども、オホーツク海のほうの西部、中部、東部のほうでは、昨年度も大漁だったわけでございますけれども、オホーツク海を中心に回帰の多い傾向が見られているわけでございます。浜もそれなりの対策をとっているわけございまして、海に近い川まで運んで放流するとか、また海中飼育をしてから放流するなどの対策をとっているわけでございますけれども、浜の若い人たちは、このアキサケの水揚げについて大変な危機感を持っているところでございます。

恐らく原因があるのだろうと、こういうふうに思いますけれども、町として、このことをどうとらまえているのか、お聞きをしたいと思います。この2点でございます。

議長（渡邊政吉君） 産業振興部長。

産業振興部長（飯島孝二君） お答えしたいと思います。

まず、1点目のヒトデの駆除の関係でございますけれども、ホタテがとれるということはヒトデもとれるということで、昔からヒトデとホタテというのは何か一致しているようなところがありまして、当然ホタテの水揚げについてはヒトデも出るということでございます。水産系の処理施設については今のところは大丈夫だというふうに思っていますけれども、いずれにしても、別海町が優先してその施設を使うということになっておりますので、その辺は今後、量的なものも見えて調整していきたいなと思っていますけれども、今のところは大丈夫だというふうに考えております。

また、補助率につきましては、現在、3分の2、浮揚対策ということでございますので、漁協も手出しするのは大変だろうということもありまして、今回につきましては3分の2を見込んでいるところでございます。

また、アキサケの関係でございますけれども、今言われたとおり、回帰率がどうなっているのかと我々も大変心配しているところでもございます。そういった面で、今、北部については3%から16%ぐらいまでの回帰率の幅があるそうでございます。また、南部については1.5%から5%ぐらいの回帰率ということで、そういうのを見ながら、ふ化事業も一生懸命やっているわけでございますけれども、近年のこの温暖化のせいなのか、そ

の辺もちょっとわからない部分がございます。

そういった面で、今、いろいろな試験場のほう、あるいは大学のほうなどが19年度ぐらいから4年間ぐらいにわたりいろいろな調査をしております。それによりますとまだ答えが出ていないと。22年度中にまとめて、それが出てくるというふうに聞いておりますので、その報告を見て、いろいろ精査してみたいなと。どういう状況か考えてみたいなというふうに思っております。

そういったことで、町として今後どうするのかということでございますけれども、漁協関係の皆さんともいろいろ、海中飼育をするなり、あるいはふ化場の状況ですね、そういったものも管内の状況などいろいろな協議しながら、これからもサケのふ化放流、あるいはそういったことに何か支援ができるものであれば、一緒になって考えていきたいなというふうに思っています。

いずれにしても、そういった原因追及が先ではないかなというふうに思っているところでございます。

以上でございます。

議長（渡邊政吉君） 戸田議員よろしいですか。

戸田議員。

9番（戸田博義君） 今の説明で大体わかったわけでございますけれども、まことに残念ながら、増養殖事業の中ではホタテとサケが優等生というふうに長く言われてきたものの一つでございまして、全くもって水揚げを見ると残念だなというふうに思うわけでございます。

知床の世界遺産登録を審査した科学者がいらっしゃいます。NPOのワイルドサーモンセンター本部のピーター博士でございまして、17年の6月に現地を訪れて、札幌へ戻り、こういうことを提言してございます。ちょっと簡単に二、三点申し上げてみたいと思いますけれども、この方はサケの国際的な専門家でございまして、現地を訪れ、札幌の後、サケの関係でロシアにも行っているというような、サケを語るとき、今はこのピーター博士のことを知らないでサケのことを語れないというような、そういう人物でござい

ます。

ちょうど平成17年といいますと、16年が一番大漁の年でございましたので、その次の年、まだアキアジがとれる前の6月にこんなことをおっしゃっております。まず一つ目は、野生のサケの遡上を、産卵できる環境にすべきであると。アメリカではサケの保護対策が真剣に考えられまして、人工のサケだけを取り、野生のサケは漁業者も釣り人も放すのだと、こういうことが徹底されていると。けれども、アメリカでもふ化事業は行われているわけでございまして、その人工放流、ひれを切るとか、そしてまた、温度を上げることによって魚に色をつける、そういうようなことで、大したお金もかからないではっきりした野生と人工ということに分けているというようなことでございます。

今後、やはり野生のサケをふやす、その科学的な意義というのは、これはずっと言われていますけれども、世界的にふ化放流を過度に進めることは懸念が高まっているわけでございまして、人工的にふ化したサケについてはどうしても遺伝子が似通ってしまい、病気や気象変化に抵抗力が落ちてくるのだということがわかっているよと、このように言って

ございます。

北海道でも野生のサケの数が回復できるのかということに対しまして、現在、北海道の野生のサケは危機的な状況にあるのだと。やはり野生のサケがふえるシステムの構築を急

がなければならないということを申し上げているわけですね。本当に第１次産業の水産と、それと酪農でございますので、どっちがだめになっても別海町は大変な打撃を受けるわけでございますので、部長が言われたように研究をしていると、２２年度にそういう結果が出るのではないかと期待申し上げまして、答弁は要りません。終わります。

議長（渡邊政吉君） 答弁はいいのですか。

９番（戸田博義君） 要りません。

議長（渡邊政吉君） それでは、ほかに御質問ございますか。

１２番佐藤議員。

１２番（佐藤初雄君） ２点ほど質問というか、説明願いたいなと思います。

１点目は、民生費の中の子ども手当の内訳、２１ページなのですが、人数とか金額、それぞれ違うと思います。その内訳と、それから２９ページの地域貢献中小企業支援対策費ですか、これの内訳というか、金額も含めて、もし、できれば詳細に説明願いたいなど。この２点、お願いしたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 福祉課長。

福祉課長（松本光永君） 子ども手当につきましては、当初予算で２億６，２３４万円を計上しておりましたが、月々の対象者人数が微増傾向にありまして、これまで１億６，４５６万７，０００円ほど支出をしております。今後支出見込み額が１億１，２０６万円になっております。残額を合わせますと、今回補正額の人数になっておりますけれども、人数につきましては、４カ月分、合わせて８，５６０人分を支出する予定でございます。

以上でございます。

議長（渡邊政吉君） 商工観光課長。

商工観光課長（岡田一芳君） お答えします。

本年度内の受注状況と来年度の予定を各町内業者に調査の確認をいたしましたところ、本年度におきましては、約３５件程度の新增改築工事を実施して、事業を申請しております。来年度の関係もありますものですから、本年度につきましては３５件程度というトータルの中から、不足分２０件分、１，０００万円分を増額しております。

以上であります。

議長（渡邊政吉君） 佐藤議員よろしいですか。

１２番（佐藤初雄君） はい。

議長（渡邊政吉君） ほかに御質問ございますか。

５番瀧川議員。

５番（瀧川榮子君） ページ、１０ページです。衛生費国庫負担金で、臨時の接種の負担金なのですが、これ多分、時限的なことで、何年もずっと続くというふうにはない負担金のことだと思うのですが、このことについて少しお知らせください。人数とか、どういうふうな接種内容……

議長（渡邊政吉君） 瀧川議員、もう少し大きい声で、はっきりお願いします。

５番（瀧川榮子君） 済みません。このことについて、時限的なものであると思うのですが、接種内容とか人数とか、どんなふうにして考えておられるのかということと、それから（「どこ」の声あり）新臨時接種負担金です。

そしてもう１点、奨学金の件です。３２ページの奨学金ですね。２カ所、奨学金があるのですが、これは支出見込み額が４００万円ほど減額になっていきます。このことに

ついて支出見込みということでこれだけ減額になったということなのですから、この内容についてお知らせください。

議長（渡邊政吉君） 保健課長。

保健課長（佐藤秀明君） お答えいたします。

保健衛生費負担金ですが、これは新型インフルエンザの予防接種ワクチンの負担金でありまして、426万6,000円のうち国庫負担が2分の1で、213万3,000円です。それと道負担金の衛生費負担金ですが、これも新型インフルエンザで426万6,000円のうちの4分の1が道の負担ということになっております。

人数ですが、対象者が1,674人でありまして、実際、助成証明を発行した人数は、12月9日現在で388名です。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 学務課長。

学務課長（佐藤英敏君） それでは、お答えいたします。

奨学資金貸付金でございますけれども、当初20人分を新規貸し付け分、予算で見えておりましたが、貸し付け決定者が9人というふうになりましたので、その執行残408万円を減額するものです。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 瀧川議員よろしいですか。

ほかに御質問ございますか。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） ないようですので、質疑を終わります。

ここで10分間休憩します。

午前11時00分 休憩

午前11時12分 再開

議長（渡邊政吉君） それでは、休憩前に引き続き、本会議を再開いたします。

日程第7 議案第85号

議長（渡邊政吉君） 日程第7 議案第85号平成22年度別海町介護サービス事業特別会計補正予算を議題とします。

内容について説明を求めます。

老人保健施設すこやか事務長。

老健事務長（清尾昌弘君） 議案第85号の内容説明を申し上げます。

別冊の別海町介護サービス事業特別会計補正予算書の1ページをお開きください。

平成22年度別海町介護サービス事業特別会計補正予算（第3号）。

平成22年度別海町介護サービス事業特別会計の補正予算（第3号）は、次に定めるところによる。

第1条、歳入歳出予算の補正。

歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ1,446万円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ8億9,650万円とする。

2項、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表 歳入歳出予算補正」による。

次に、2ページをお開きください。

第1表、歳入歳出予算補正であります。

歳入です。

1款介護サービス費、1項で640万9,000円の減。

2款使用料及び手数料、1項で111万1,000円の減。

4款財産収入、1項で11万3,000円の減。

5款繰入金、1項で741万8,000円の減。

7款諸収入、2項で59万1,000円の増。

歳入合計で1,446万円を減額し、8億9,650万円とするものでございます。

歳出です。

1款介護サービス事業費、1項で112万3,000円の増。

3款給与費、1項で1,558万3,000円の減。

歳出合計で1,446万円を減額し、8億9,650万円とするものでございます。

次の歳入歳出予算補正事項別明細書の1、総括については説明を省略しまして、5ページの歳入から説明します。

歳入です。款項の金額につきましては説明を省略しまして、目の金額を説明いたします。

1款介護サービス費1項1目施設介護サービス費、745万9,000円の減は、特別養護老人ホーム入所者の減による補正です。

2目居宅介護サービス費、105万円の増は、短期入所者の増による補正です。

2款使用料及び手数料1項1目施設介護サービス使用料、133万円の減は、特別養護老人ホーム入所者の減による補正です。

2目居宅介護サービス使用料、21万9,000円の増は、短期入所者の増による補正です。

次に6ページをお開きください。

4款財産収入1項1目財産貸付収入、11万3,000円の減は、医師及び医療技術員住宅貸付収入の減による補正です。

5款繰入金1項1目繰入金、741万8,000円の減は、歳出予算に対する歳入予算超過分を減額補正するものです。

7款諸収入2項1目雑入、59万1,000円の増は、社会保険収入増による補正です。

次に7ページをお開きください。

歳出です。

1款介護サービス事業費1項1目老人保健施設費、64万円の減は、需用費の燃料費108万6,000円の増と、執行残や支出見込み額の精査による減額補正です。

2目特別養護老人ホーム費、155万7,000円の増は、共済費で118万3,000円の増と需用費の燃料費で85万2,000円増が主な補正です。

次に8ページをお開きください。

3目デイサービスセンター費、20万6,000円の増は、需用費の燃料費16万4,000円が主な補正です。

次に10ページをお開きください。

3款給与費1項1目給与費、1,558万3,000円の減は、給料で500万円の減、

職員手当等で736万円の減、共済費で322万3,000円の減による補正です。

次に11ページをお開きください。

補正予算給与費明細書でございます。

一般職、総括の区分、補正前との比較の欄で申し上げます。

職員数1人増。給与費の給料で500万円の減、職員手当等で710万円の減、共済費で322万3,000円の減、合計で1,532万3,000円の減額となります。

次の職員手当等の内訳以下につきましては、説明を省略させていただきます。

以上で、議案第85号の内容説明を終わります。

議長（渡邊政吉君） 議案第85号の内容説明が終わりましたので、本件の質疑を行います。

質疑に入ります。

11番中村議員。

11番（中村忠士君） 2点お伺いします。

1点は、利用者の減という説明がありましたけれども、当初どのぐらいの利用数を考えていて、それがどのぐらい減ったかという数の問題を1点お聞きします。

それから、現在の待機者数についてお伺いします。その内訳もできたら教えていただきたいと思います。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 特老施設長。

特老施設長（村井 勉君） お答えします。

まず、待機者のほうなのですが、12月1日現在で、現在72名待機しております。内訳なのですが、別海町の待機者が58名、残りが他町村になっております。

収入減のほうの説明なのですが、当初、延べ人数で2万9,200人の予定をしておりました。現在までの上半期の推計をかけた段階で、800名ほど落ちる予定になりましたので、補正減となっております。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 中村議員よろしいですか。

中村議員。

11番（中村忠士君） 800人程度の減の理由というのですか、原因というのですかね、そこら辺が、もし分析できていたら教えていただきたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 特老施設長。

特老施設長（村井 勉君） お答えします。

今年度、特に入所者の減につながったのは、入院者の数が予定よりもはるかに多かったということが大きな原因です。昨年に比べて延べ人数で300名以上入院日数が延びておりますので、その影響と思われます。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 中村議員よろしいですか。

11番（中村忠士君） よろしいです。

議長（渡邊政吉君） ほかに御質問ございますか。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） ないようですので、以上で質疑を終わります。

日程第 8 議案第 8 6 号

議長（渡邊政吉君） 日程第 8 議案第 8 6 号平成 2 2 年度町立別海病院事業会計補正予算を議題といたします。

内容について説明を求めます。

病院事務課長。

病院事務課長（佐藤一彦君） 議案第 8 6 号平成 2 2 年度町立別海病院事業会計補正予算について御説明いたします。

別冊、補正予算書 1 ページをお開き願います。

平成 2 2 年度町立別海病院事業会計補正予算（第 2 号）。

今回の補正は、医師の体制などにより入院患者、外来患者が当初想定していたよりも減少したことで、医業収益で 1 億 9, 2 0 0 万円ほどの減収が見込まれ、今後、病院経営に支障を来すことから、一般会計からの繰入金が増額が主な補正内容です。

第 1 条、総則。

平成 2 2 年度町立別海病院事業会計の補正予算（第 2 号）は、次に定めるところによる。

第 2 条、業務の予定量。

予算第 2 条の業務の予定量を、次のとおり改める。

2、年間患者数。入院、5, 1 1 2 人減の計 1 万 8, 6 1 3 人。外来、3, 9 2 4 人減の 6 万 4, 4 3 2 人。

3、1 日平均の患者数。入院、1 4 人減の計 5 1 人。外来、1 8 人減の計 2 6 4 人。

第 3 条、収益的収入及び支出。

予算第 3 条の収益的収入及び支出の予定額を、次のとおり補正する。

収入。

1 款 1 項医業収益、1 億 9, 2 1 2 万 7, 0 0 0 円減で、9 億 9, 3 1 3 万 5, 0 0 0 円。

2 項医業外収益、8, 8 2 2 万 2, 0 0 0 円増で、6 億 8, 0 5 1 万円。

次に支出。

1 款 1 項医業費用、8, 9 9 4 万 4, 0 0 0 円減で、1 7 億 1, 8 9 4 万 1, 0 0 0 円。

1 款病院事業費用の合計で、1 7 億 5, 8 8 8 万 6, 0 0 0 円。

続きまして、2 ページです。

第 4 条、議会の議決を経なければ流用することのできない経費。

予算第 7 条に掲げる経費を次のとおり改める。

職員給与費、5, 0 7 9 万 1, 0 0 0 円減で、1 1 億 3, 8 8 1 万 8, 0 0 0 円。この額については、給与費の合計額から子ども手当と児童手当を除いたものです。

第 5 条、たな卸資産の購入限度額。

予算第 9 条中、2 億 3, 5 0 2 万円を 1 億 8, 6 9 3 万 8, 0 0 0 円に改める。この額につきましては、材料費の中で医療消耗備品を除く医薬費と診療材料費の合計額です。

続きまして、飛ばしまして、1 2 ページをお開き願います。

1 2 ページです。町立別海病院事業会計補正予算実施計画説明書です。

収益的収入及び支出。先ほど、款項で説明いたしましたので、目で説明いたします。

1 款 1 項 1 目入院収益、1 億 5, 1 6 7 万円減。

2 目外来収益、2, 8 9 4 万 1, 0 0 0 円減。これにつきましては、患者数が減ったことによります減収です。

3目その他医業収益、1,151万6,000円減。室料差額収益45万6,000円、長期個室利用者がふえたことにより増額です。公衆衛生活動収益641万8,000円減。妊婦健診の数が減ったことによる減です。その他医業収益555万4,000円減。分娩料、新生児管理料が減ったことによる減額です。

2項2目他会計補助金、220万1,000円の減。一般会計補助金の減額です。基礎年金、公的負担金とそれから追加費用負担分の変更です。

4目負担金交付金、8,925万4,000円の増。一般会計からの繰入金分です。

6目その他医業外収益、116万9,000円の増。社会保険料や医師住宅料の増額によるものです。

続きまして、支出です。

1款1項1目給与費、給与費につきましては、年度当初に比べ、医師、看護師の退職や産休等による減額のほか、全体を精査した中での補正であります。よって、補正の概要につきましては、合計の補正額のみといたします。

医師給437万6,000円増。看護師給1,170万8,000円減。医療技術員給188万3,000円増。事務員給144万1,000円減。給料合計で689万円の減額です。

医師手当等1,243万4,000円減。看護師手当等1,297万2,000円減です。

続きまして、14ページ。

なお、14ページ、15ページ、16ページで、一部表示に誤りがありますので、申しわけありませんが、訂正願います。14ページの項目で、款項目、本年度予定額、前年度予定額、比較と表示してありますが、この表示を13ページと同じく、本年度予定額を既決予定額、前年度予定額を補正予定額、比較を計と訂正願います。同じく15ページ、16ページも訂正願います。

医療技術員手当等25万8,000円減。事務員手当等203万円減。手当等の計で、2,769万4,000円の減となっています。

賃金1,256万9,000円の減。

法定福利費308万2,000円の減。

組合負担金46万7,000円増です。

次に、2目材料費、4,808万2,000円減。薬品費2,436万2,000円減。診療材料費2,372万円減です。患者数の減により、薬品費、材料費ともに減ったものです。

3目経費、666万4,000円増。旅費交通費543万4,000円増。これにつきましては、地域医療振興協会からの外科医の派遣医師の旅費の分が増額となっております。保険料90万円減。負担金213万円増。負担金につきましても、地域医療振興協会からの派遣医師の報酬分の増額です。

4目減価償却費、建物減価償却費40万2,000円減。器械備品減価償却費178万9,000円増。その他無形固定資産2万5,000円減。これにつきましては、予算を精査した中での補正です。

5目資産減耗費、60万円増。棚卸資産の減耗費の増額です。

続きまして、4ページをお開き願います。

町立別海病院事業会計資金計画でございます。

受入資金及び支払資金の補正額と合計額の説明といたします。

受入資金、8,687万4,000円減で、46億737万2,000円。支払資金、9,765万6,000円の減で、44億4,803万円。差し引き1,078万2,000円増で、1億5,934万2,000円となります。この1億5,934万2,000円が11ページに載せております貸借対照表の流動資産、現金預金となっております。

以上で、平成22年度町立別海病院事業会計補正予算、補正第2号の説明を終わります。

議長（渡邊政吉君） 議案第86号の内容説明が終わりましたので、本件の質疑を行います。

質疑に入ります。

ございますか。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） ないようですので、質疑を終わります。

日程第9 議案第87号

議長（渡邊政吉君） 日程第9 議案第87号平成22年度別海町水道事業会計補正予算を議題といたします。

内容について説明を求めます。

上下水道課長。

上下水道課長（永野寛明君） 議案第87号平成22年度別海町水道事業会計補正予算について御説明いたします。

補正第2号の1ページをごらんください。

平成22年度別海町水道事業会計補正予算（第2号）。

第1条、総則。

平成22年度別海町水道事業会計の補正予算（第2号）は、次に定めるところによる。

第2条、収益的収入及び支出。

予算第3条の収益的支出の予定額を、次のとおり補正する。

支出でございます。

第1款水道事業費用は、第1項営業費用で597万2,000円減。第2項営業外費用で31万1,000円減額し、5億2,536万9,000円とするものであります。

第3条、議会の議決を経なければ流用することのできない経費。

予算第6条に定めた経費の金額を次のように改める。

職員給与費を847万2,000円減額し、7,458万8,000円に改めるものであります。

2ページの平成22年度別海町水道事業会計補正予算実施計画は、省略させていただきます。

9ページをごらんください。

平成22年度別海町水道事業会計補正予算実施計画説明書でございます。

さきに款項については説明させていただきましたので、目で御説明いたします。

収益的収入及び支出の支出でございます。

1款1項1目原水及び浄水費、250万円の増額。別海浄水場月例点検時に、8ろ過施設のうち3ろ過池でろ過砂が隣接の集水室に流出しているのが判明いたしました。早急に修繕を必要とすることから補正するものであります。

4目総係費、847万2,000円の減額。4月1日付、職員の人事異動による正職員1名の減額分でございます。

2項3目消費税及び地方消費税、31万1,000円の減額。工事請負費補正増に伴う仮払い消費税と仮受け消費税の差額支払いにかかわる減額分でございます。

戻りまして、3ページをごらんください。

平成22年度別海町水道事業会計資金計画であります。

下段の支払資金です。

1項営業費用で597万2,000円の減額。

2項営業外費用で15万3,000円の増額。

1項から2項まで合わせまして581万9,000円を減額し、支払い金額を6億7,689万3,000円とするものであります。

差し引きで581万9,000円を増額し、25億3,682万8,000円とするものであります。この差し引き合計額は、年度末の現金預金の予定額であります。

4ページをごらんください。

補正予算給与費明細書でございます。

1、総括。比較の合計欄で説明いたします。

職員数1名減。給料で429万7,000円の減、手当で167万4,000円の減、法定福利費で250万1,000円の減。合計で847万2,000円を減額し、上段になります補正後の合計額を7,458万8,000円とするものであります。

以下、6ページまでは説明を省略させていただきます。後ほどごらんいただきたいと思います。

7ページをごらんください。

平成22年度別海町水道事業予定損益計算書でございます。最下段をごらんください。

当年度純利益が1億6,752万8,000円となる予定でございます。

8ページの平成22年度別海町水道事業予定貸借対照表については、後ほどごらんいただきたいと思います。

以上で、議案第87号の内容説明を終わります。

議長（渡邊政吉君） 議案第87号の内容説明が終わりましたので、本件の質疑に入ります。

質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） ないようですので、質疑を終わります。

日程第10 議案第88号

議長（渡邊政吉君） 日程第10 議案第88号公の施設に係る指定管理者の指定について（別海町ケアハウスみどり野）を議題といたします。

内容について、説明を求めます。

福祉課参事。

福祉課参事（清水純夫君） 議案第88号の内容説明を申し上げます。

本件は、公の施設に係る指定管理者の指定に当たり、地方自治法第244条の2第6項の規定により議会の議決を求めるものであります。

それでは、本文を朗読し、内容説明とさせていただきます。

1、指定管理者に管理を行わせる公の施設の名称及び所在地。

名称、別海町ケアハウスみどり野。

所在地、別海町別海寿町51番地。

2、指定管理者。

所在地、別海町別海西本町36番地。

名称、別海町社会福祉協議会。

代表者名、会長木村征俊。

3、指定の期間。

平成23年4月1日から平成28年3月31日まで。

以上で、議案第88号の内容説明を終わります。

議長（渡邊政吉君） 議案第88号の内容説明が終わりましたので、本件の質疑を行います。

質疑に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） ないようですので、質疑を終わります。

日程第11 議案第89号

議長（渡邊政吉君） 日程第11 議案第89号公の施設に係る指定管理者の指定について（別海町高齢者生活ハウス）を議題といたします。

内容について、説明を求めます。

福祉課参事。

福祉課参事（清水純夫君） 議案第89号の内容説明を申し上げます。

本件は、公の施設に係る指定管理者の指定に当たり、地方自治法第244条の2第6項の規定により議会の議決を求めるものであります。

それでは、本文を朗読し、内容説明とさせていただきます。

1、指定管理者に管理を行わせる公の施設の名称及び所在地。

名称、別海町高齢者生活ハウス。

所在地、別海町西春別駅前曙町9番地の3。

2、指定管理者。

所在地、別海町別海西本町4番地。

名称、道東あさひ農業協同組合。

代表者名、代表理事組合長原井松純。

3、指定の期間。

平成23年4月1日から平成28年3月31日まで。

以上で、議案第89号の内容説明を終わります。

議長（渡邊政吉君） 議案第89号の内容説明が終わりましたので、本件の質疑を行います。

質疑に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 質疑を終わります。

日程第12 議案第90号

議長（渡邊政吉君） 日程第 12 議案第 90 号公の施設に係る指定管理者の指定について（西春別デイサービスセンター）を議題といたします。

内容について、説明を求めます。

福祉課参事。

福祉課参事（清水純夫君） 議案第 90 号の内容説明を申し上げます。

本件は、公の施設に係る指定管理者の指定に当たり、地方自治法第 244 条の 2 第 6 項の規定により議会の議決を求めるものであります。

それでは、本文を朗読し、内容説明とさせていただきます。

1、指定管理者に管理を行わせる公の施設の名称及び所在地。

名称、西春別デイサービスセンター。

所在地、別海町西春別駅前曙町 9 番地の 3。

2、指定管理者。

所在地、別海町別海西本町 4 番地。

名称、道東あさひ農業協同組合。

代表者名、代表理事組合長原井松純。

3、指定の期間。

平成 23 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで。

以上で、議案第 90 号の内容説明を終わります。

議長（渡邊政吉君） 議案第 90 号の内容説明が終わりましたので、本件の質疑を行います。

質疑に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 質疑を終わります。

日程第 13 議案第 91 号

議長（渡邊政吉君） 日程第 13 議案第 91 号公の施設に係る指定管理者の指定について（別海町酪農研修牧場）を議題といたします。

内容について、説明を求めます。

農政課長。

農政課長（山崎 茂君） 議案第 91 号公の施設に係る指定管理者の指定についての内容を説明いたします。

別海町酪農研修牧場の運営管理につきましては、平成 18 年度から指定管理者により実施してまいりました。5 年を経過いたします平成 23 年 3 月 31 日をもって指定管理の期間が満了することから、指定管理を継続するに当たり、指定管理候補者の選定を公募によらない形で行ったところであります。

この指定管理候補者については、平成 22 年 11 月 9 日開催の別海町指定管理者選定委員会にて審議され、適当であることから、地方自治法第 244 条の 2 第 6 項の規定により、指定管理者の指定について議会の議決を求めるものでございます。

それでは、議案書の朗読をもって説明にかえさせていただきます。

1、指定管理者に管理を行わせる公の施設の名称及び所在地。

(1) 名称、別海町酪農研修牧場。

(2) 所在地、別海町西春別 347 番地の 63。

2、指定管理者。

(1)所在地、別海町西春別347番地の63。

(2)名称、有限会社別海町酪農研修牧場。

(3)代表者名、代表取締役社長磯田俊夫。

3、指定の期間。

平成23年4月1日から平成28年3月31日まで。

以上、議案第91号の説明とさせていただきます。

議長（渡邊政吉君） 議案第91号の内容説明が終わりましたので、本件の質疑を行います。

質疑に入ります。ございますか。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） ないようですので、質疑を終わります。

日程第14 議案第92号

議長（渡邊政吉君） 日程第14 議案第92号公の施設に係る指定管理者の指定について（別海町農業団地センター兼農業者トレーニングセンター）を議題といたします。

内容について、説明を求めます。

農政課長。

農政課長（山崎 茂君） 議案第92号公の施設に係る指定管理者の指定についての内容を説明いたします。

別海町農業団地センター兼農業者トレーニングセンターの運営管理につきましては、平成18年度から指定管理者により実施してまいりましたが、5年を経過いたします平成23年3月31日をもって指定の期間が満了することから、指定管理を継続するに当たり、指定管理者候補者の選定を公募によらない形で行ったところでございます。

この指定管理者候補については、平成22年11月9日開催の別海町指定管理者選定委員会で審議され、適当であるとのことから、地方自治法第244条の2第6項の規定により、指定管理者の指定について議会の議決を求めるものでございます。

それでは、議案書の朗読をもって説明にかえさせていただきます。

1、指定管理者に管理を行わせる公の施設の名称及び所在地。

(1)名称、別海町農業団地センター兼農業者トレーニングセンター。

(2)所在地、別海町中春別南町3番地の1。

2、指定管理者。

(1)所在地、別海町中春別南町3番地。

(2)名称、中春別農業協同組合。

(3)代表者名、代表理事組合長小湊保。

3、指定の期間。

平成23年4月1日から平成28年3月31日まで。

以上、議案第92号の説明とさせていただきます。

議長（渡邊政吉君） 議案第92号の内容説明が終わりましたので、本件の質疑を行います。

質疑に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 質疑を終わります。

日程第 15 議案第 93 号

議長（渡邊政吉君） 日程第 15 議案第 93 号公の施設に係る指定管理者の指定について（別海町ウニ種苗育成センター）を議題といたします。

内容について、説明を求めます。

水産みどり課長。

水産みどり課長（藤原繁光君） 議案第 93 号公の施設に係る指定管理者の指定についての内容について説明申し上げます。

本件は、公の施設である別海町ウニ種苗育成センターの運営管理につきまして、平成 18 年度から管理組合であります野付漁業協同組合が指定を受けており、その期間が平成 23 年 3 月 31 日をもって満了することに伴いまして、指定管理者を継続するに当たり、新たに指定管理者候補の選定を公募によらない形で行ったところでございます。

指定管理候補者であります野付漁業協同組合については、平成 22 年 11 月 9 日開催の別海町指定管理者選定委員会で審議され、適当であるとのことから、地方自治法第 244 条の 2 第 6 項の規定により、指定管理者の指定について議会の議決を求めるものでございます。

なお、指定期間につきましては、平成 23 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までの 5 年間であります。

議案の朗読については省略させていただきまして、議案第 93 号の内容説明を終わります。

議長（渡邊政吉君） 議案第 93 号の内容説明が終わりましたので、本件の質疑を行います。

質疑に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 質疑を終わります。

日程第 16 議案第 94 号

議長（渡邊政吉君） 日程第 16 議案第 94 号公の施設に係る指定管理者の指定について（別海町ニシン種苗生産センター）を議題といたします。

内容について、説明を求めます。

水産みどり課長。

水産みどり課長（藤原繁光君） 議案第 94 号公の施設に係る指定管理者の指定についての内容について説明申し上げます。

本件は、公の施設である別海町ニシン種苗生産センターの運営管理につきまして、平成 18 年度から代表組合であります別海漁業協同組合が指定を受けており、その期間が平成 23 年 3 月 31 日をもって満了することに伴いまして、指定管理者を継続するに当たり、新たに指定管理候補者の選定を公募によらない形で行ったところでございます。

指定管理候補者であります別海漁業協同組合については、平成 22 年 11 月 9 日開催の別海町指定管理者選定委員会で審議されまして、適当であるとのことから、地方自治法第 244 条の 2 第 6 項の規定により、指定管理者の指定について議会の議決を求めるものでございます。

なお、指定期間につきましては、平成23年4月1日から平成28年3月31日までの5年間であります。

議案の朗読については省略させていただきますして、議案第94号の内容説明を終わります。

議長（渡邊政吉君） 議案第94号の内容説明が終わりましたので、本件の質疑を行います。

質疑に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 質疑を終わります。

日程第17 議案第95号

議長（渡邊政吉君） 日程第17 議案第95号辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更についてを議題といたします。

内容について、説明を求めます。

財政課長。

財政課長（竹中 仁君） 議案第95号の内容説明をいたします。

議案の12ページです。

議案第95号辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更について。

本件につきましては、辺地に係る公共的施設の総合整備のための財政上の特別措置等に関する法律第3条において、辺地の公共的な施設を整備しようとするときは、あらかじめ都道府県知事と協議の上、議会の議決を経て、当該辺地に係る公共的施設の総合的な整備に関する財政上の計画を定め、これを総務大臣に提出しなければならないと規定されており、同条第5項の規定により総合整備計画を変更する場合についても同様とされていることから、別紙総合整備計画書のとおり内容を変更することについて議会の議決を求めるものであります。

今回変更するのは、中春別辺地です。13ページをごらんください。

中春別辺地の総合整備計画は、平成21年度から平成25年度までの5年間で、今回は第1次の変更です。

変更の内容は、整備計画施設に保育所を追加するもので、中春別へき地保育園を対象施設としております。

2の公共的施設の整備を必要とする事情で、これの一番下になりますが、保育所で、現中春別へき地保育園は昭和48年建築で、狭隘な上老朽化が進んでおり、快適な保育環境を整備するため改築の必要があるというものでございます。

また、3の公共的施設の整備計画に、保育所として、全額一般財源で事業費1億6,000万円を追加し、一般財源のうち辺地対策事業債の予定額を1億4,900万円とするものでございます。

変更後のほかの施設を含む合計事業費は、上段の括弧書きで、5億4,847万6,000円、特定財源の1億208万円に変更はございません。一般財源は4億4,639万6,000円、うち辺地対策事業債の予定額を4億3,260万円とするものです。

辺地の概況、その他施設の整備計画等に変更はございません。

以上で、議案第95号の内容説明を終わります。

議長（渡邊政吉君） 議案第95号の内容説明が終わりましたので、本件の質疑を行い

ます。

質疑に入ります。

(「なし」の声あり)

議長(渡邊政吉君) ないようですので、質疑を終わります。

ここで、午後１時まで休憩をいたします。

午後 ０時 ０ ２ 分 休憩

午後 ０時 ５ ７ 分 再開

議長(渡邊政吉君) 休憩前に引き続き、本会議を再開いたします。

なお、午後から佐々木議員が早退をしておりますので、申し添えます。

日程第 18 一般質問

議長(渡邊政吉君) 日程第 18 一般質問を行います。

質問の通告がありますので、順次、発言を許します。

まず初めに、10番戸田憲悦議員、質問者席にお着きを願います。

なお、質問は一括質問方式でございます。

10番(戸田憲悦君) 通告により質問をいたします。

町長の2期目の出馬についてということで、次期に向けた出馬の意思及び町政の執行に当たり、どのような政策課題を考えて臨まれるのか。意思の表明を含めて、ひとつ確認をいたしたいと思います。

町長は、平成19年に就任以来、マニフェストに掲げた施策実施に向け、力を傾注してこられました。特に、平成21年度策定の「笑顔あふれる豊かさ実感のまちべつかい」をテーマとした第6次別海町総合計画では、「協働」を基本に、町民と一体になった施策に取り組んでこられております。基幹産業の振興はもとより、新しい病院の建設、自治基本条例の制定、推進など、多くの施策を実行しております。

そこで、水沼町政2期目に向けた出馬の意思を含めた、私なりに次の重要課題についてお尋ねするものであります。

まず1番目に、本町の基幹産業である酪農、畜産、それと漁業、いわゆる水産業について、生産の維持と乳価の安定、漁獲、漁業資源の安定、漁価の安定は重要な命題であります。そこに基幹産業を根底から揺るがすT P P問題が発生したわけでございます。多くの難題がある中で、基幹産業の将来について、具体的な振興策があれば、お聞きしたいと思います。

T P P問題については、前回の臨時議会で、全会一致で反対の意見書を提出したわけですが、行方混沌とした状況の中で、まさに農業が崩壊寸前になるだろうというような懸念がなされております。

中標津で漁業者団体、産業団体が集結いたしまして、反対ののろしを上げました。また、釧路でも1,000人ほどの方々が集結し、アピールをしたということでございます。対応する施策では大変難しいことではございますが、一つ太宗的なお考えをお聞かせ願いたいと思います。

2番目として、昨年4月、中小企業振興基本条例が施行されました。本町の大多数を占める中小企業の活性化にかかわる具体的な支援策と、地域産業の成果がより地域循環されるための施策について、方策について、どのように進めようとしておられるのか、お聞き

したいと思います。

3 番目に、本町の貴重な自然資源である野付半島から走古丹、風蓮湖に至る 100 キロ余に及ぶ海岸線の保全についてであります。

これは、今も侵食がどんどん進む海岸線の緊急対策の緊急課題であります。生態系も含めた生産基盤の防衛線、生命線でもあります。

平成 2 年に海岸保全の、いわゆる道が打ち出したヘッドランド工法が既に 20 年の経過をいたしましたけれども、その成果、効果が余り上がっていないような状況でございますけれども、国や道に対してこれからどのような要請をされていくのか、強く要請内容について望むものであります。

また、広大な酪農草地帯と生産資源活用によるグリーンツーリズム、マリンツーリズムの連携による観光産業の活性化は、本町の商工業を含めた全産業の活性化による経済効果の創出が期待されるものだと思います。どのような考え方でおられるのか、町長の考え方をお聞かせ願います。

4 番目には、平成 24 年度完成する別海町立病院について、町民が最も期待している地域医療のあり方、このことについて、基盤の強化と経営安定について町長のお考えをお聞かせください。

5 番目として、最後でございますが、総括として、冒頭で申し上げましたが、町長のマニフェストにもある、町民とともに行う協働、べつかい協働のまちづくり町民会議や自治基本条例など、具体的な施策の中で今後加速をされるであろう地方分権と、地域の諸課題解決に向けた自主的な取り組みが必要と考えられます。水沼町政 1 期目を終える経過と成果、2 期目に向けた具体的な協働にかかわる構想をお聞かせ願いたいと思います。

以上でございます。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） まず、戸田議員にお答えを申し上げる前に、次期の表明につきまして、このような機会をいただきましたことに心から感謝を申し上げたいと思います。

それではお答えを申し上げます。

早いもので、私が多くの町民の皆さんの御支持をいただきながら、町政のかじ取りを託されて以来、はや、あと 4 カ月、残すところ 4 カ月というところになりました。

この間、私は、町民の皆様と一緒に自立のまちづくりを進めたいという思いを胸に、常に町民の皆様方の声に耳を傾け、私自身が町民感覚を忘れないよう心がけながら、病院建設に着手するとともに、赤字の三セク解消、監査機能の充実、入札制度の改革などに取り組み、将来に向かって自立可能な健全な財政運営に努めてきたところでございます。

また、多くの町民の皆様方の参画をいただきながら、「笑顔あふれる豊かさ実感のまちべつかい」、これを将来像とした第 6 次総合計画を作成することができました。そして今、別海町にふさわしい自治基本条例を議会並びに町民の皆様方とともに力を合わせて策定すべく、その作業に着手をいたしているところでございます。

しかしながら、今後におきましても、特別養護老人ホーム、また、生涯学習センターの建設など老朽化施設の建てかえのほか、多くの難しい諸課題を抱えておりまして、また、先行き不透明な政権下にもありますし、厳しい財政運営も予想されるところであります。豊かな生活と地域を支える基幹産業を守り育てるとともに、町民の皆様方との対話を大切に、協働と透明性のある町政を進め、いつまでも謙虚で清潔な政治姿勢を貫きながら、2 期目を目指したいと決意を新たにしているところでございます。

今後においても、多くの難しい諸課題を抱えております。町民各位、並びに議員各位の御支援、御協力をお願い申し上げる次第であります。

また、戸田議員から御質問がありました５点につきましては、それぞれ本町の重要な懸案事項であると私も認識をしておりますが、これらに対する具体策については、いずれ時期を見て公約という形で明らかにしていきたい。また、マニフェストの検証等を含めて十分熟慮した中で明らかにしてまいりたい、そのように思っております。

したがって、きょうは、基本的な考え方についてお話を申し上げますので、ぜひ御理解をいただきたいと思うところでございます。

まず、一つ目は基幹産業の振興策についてであります。

基幹産業の将来にわたる振興策についてでございますが、私は、地域産業の発展と安定が町民福祉と豊かなまちづくりにつながるものとの考えのもとに、地域産業の振興に努めてきたところであります。特に酪農・畜産につきましては、全国の生乳生産の６％を生産している日本一の酪農のまちとして、ただ国の政策を受け入れるだけでは本町の生産者に最善の施策を提供することにはならないものであり、特に、今日のように基本政策の見直し、また、戸別所得補償制度への移行など、政権交代に伴う大きな変化が起こる場合には、まさに万人が認めていただけるような地域からの政策提言を国に対し積極的に行っていくべきであると思っております。そして、国の政策として具現化されることに最大限の努力をしてまいります。

また、一昨年の世界的な食料、エネルギーの暴騰によりまして、我が国の酪農・畜産に危機的な状況をもたらしたところでございますが、このことは一過性のものではありません。現に、高値安定の中にもございます。

したがって、本町においては、豊かでゆとりある酪農・畜産を目指すために、広大な農地、草地資源、また、ふん尿等を最大限有効に活用し、輸入穀物、また輸入肥料に過度に依存することなく粗飼料の自給を上げ、また、ふん尿の有効利用などにより所得を上げることが経営の安定につながることであり、このこととともに本町の特性を生かした振興策を推進することが基本であると考えております。

次に、漁業についてですが、長年にわたって取り組んできたつくり育てる漁業、自然管理型漁業をさらに推進し、前浜資源の維持、増大を図ることが漁業者の安定的所得を確保することができることに繋がるとともに、加工、また流通業者等、水産業全体の発展につながると考えております。

また、そのための漁場環境の保全、整備、また、種苗放流などつくり育てる漁業と環境整備を推進することや、食に対する安心安全が強く求められていること、また、さらにブランド化を進めるためにも、一層の品質や管理の向上が重要であります。そのための衛生管理型漁港の整備を今後とも進めていくことを基本として取り組んでいきたいと考えているところであります。

また、ＴＰＰについても御質問がございました。いわゆる環太平洋戦略的経済連携協定、この交渉参加の問題については、まさに１次産業を経済の基盤とする多くの別海町民が、この恵まれた自然豊かな大地に将来にわたって安心して暮らせる別海町社会構造、この崩壊に導きかねないものであり、交渉参加には断固反対でございます。断固阻止に向けて全力を尽くしてまいり所存であります。

次に、中小企業の振興策についてですが、私は、中小企業についても、基幹産業である１次産業とともにバランスがとれる形で発展していくことへの可能性があり、活力のある

まちづくり、魅力あるまちづくりのためにも中小企業の振興が重要であるとの思いで、中小企業の振興に取り組んできたところでございます。

そのために、中小企業や商工会の皆様とともに、中小企業振興基本条例を制定し、地域経済と町民生活の向上に重要な役割を担っている中小企業の振興を図り、地域経済の活性化を目指してまいりたいと考えてきたところであります。

現在、いろいろな取り組みも中小企業対策も行っていますが、現在、商工会や中小企業家同友会などの皆様と協議会を設置し、有効な振興策を指針とするための提言書の策定作業を進めていただいているところであります。

町としては、この提言書を尊重し、早期に指針をつくり、総合的に中小企業の振興を図ってまいります。

次に、海岸線の保全と観光産業の活性化についてですが、本町の海岸線については、近年、海岸侵食が進み、暴風波浪、高波等により、番屋の床下浸水、漁網・漁具の流出、さらには生活道路などへの被害が発生し、漁業経営に支障を来しているところでもございます。また、海岸線が決壊した場合には、魚介類の生息環境や自然環境にも重大な影響が懸念されるところであります。

生産基盤の確保や自然環境の保全のためにも、早急な海岸保全対策について、今後も、国、道など関係機関に積極的に要請をし、実現を図ってまいりたいと考えております。

次に、観光産業の活性化については、観光が地域経済の発展に大きく寄与する重要な産業と位置づけ、観光の振興を図ってまいります。

現在は通過客がほとんどを占めているなど、豊かな地域資源も、観光客が年間を通して繰り返し訪れる魅力ある観光、交流資源として活用されているとは言えない状況にございます。

このため、多様化、高度化する観光ニーズに対応した既存の観光、そして交流資源の整備、充実、またネットワーク化、また、新たな観光資源の掘り起こし、グリーンツーリズム、マリンツーリズム、エコツーリズムなどの体験観光、通年観光、滞在型の観光地づくり、交流人口の増加に向けた多面的な取り組みを、まさに町ぐるみで進めていく必要があると考えております。そして、積極的なPR活動、そして、海外からの観光客の取り組みにも努力をしまっている所存であります。

次に、別海病院のあり方についてですが、新病院については、平成24年秋に開設予定として順調に建設が進んでいるところでございます。住みなれた町で町民の皆さんが健康で安心して暮らし続けられるためには、医療の確保が最も重要でございます。

医師不足が叫ばれる中、医師確保については、今後とも最大限の努力をしながら医療サービスの充実に努めてまいります。

本町におきましては、長年にわたり医師の派遣について札幌医大から全面的な支援を受けてまいりましたが、さらなる連携を図り、予防医療の推進や医療の充実に努めていく考えであります。

また、町民に安定した医療サービスを提供するために、業務の効率化を図るなど、自立した病院経営にも努めてまいります。

また、町民の皆さんの自主的な組織として、別海町立病院をサポートする「医良同友」が設立され、その活動内容が高い評価を得ております。

このように、今後とも町民と行政が一体となり、医師やスタッフが高いモチベーションを保ちながら医療に従事できる環境を整えていく努力を積極的にしてまいります。

次に、五つ目ですが、町政１期目を終える経過と２期目に向けた具体的な協働に関する施策についてということでございますが、本格的な地方分権の進展や町民のニーズが多様化する状況の中、本町においては、まちづくりの主役は町民の理念のもと、町民と行政、さらには多様な主体がそれぞれの役割と責任を持って協働し、自立した住民参加のまちづくりを目指し、住民と行政との協働体制の確立や情報共有を推進する協働のまちづくりに向け、誠心誠意さまざまな取り組みを進めてまいったところであります。

平成１９年度には、町民との対話を大切にし、町民の意見や思いが反映された政策決定を実践するため、各地区での地域懇談会を実施してまいりました。また、情報共有と協働のまちづくりを推進するため、その年に実施する主な事業や予算概況などについて写真や図表を用いてわかりやすく解説した資料として「今年のしごと」を作成いたしました。

さらに、町民と行政による協働のまちづくりを推進するため、各種団体等が行うまちづくり活動や地域活性化に向けた取り組みを支援する制度として、公募型の補助金として別海協働のまちづくり補助金を創設いたしました。

平成１９年１１月から、町民の一般公募により応募のあった人と行政職員の一般公募職員で構成するべつかい協働のまちづくり町民会議がスタートをいたしました。この町民会議では、理想のまちを話し合うところから始まり、第６次別海町総合計画の検討や協働のまちづくりフォーラムの開催が行われ、平成２１年３月には、べつかい協働のまちづくり提言書の提出があったところであります。

平成２１年度には、まちづくりの共通目標として、幅広い層の皆様に親しまれ、協働のまちづくりを基本に、多くの町民の参加のもと、町民と行政が一体となり別海町を創造することを目指して、第６次別海町総合計画「ともにつくるべつかい創造プラン」を策定しました。また、町民の皆さんの声を聞き、町民と行政との協働のまちづくりを始めるため、これまでの地域懇談会に各団体が主催で実施する「町長と話しませんか」、また、牛乳を飲みながら気軽に懇談するミルクミーティングを加え、さまざまな方法で町民との対話を推進し、町民と行政の情報共有を図り、協働のまちづくりを推進しております。

平成２２年度からは、町民の皆様の意見を聞きながら、別海町にふさわしい町政運営の基本原則、また、自治推進のための基本理念を定める別海町自治基本条例、仮称でございますが、この制定に向け取り組みを進め、年度内の条例化に向けて事務を進めております。

平成２３年度以降は、これまでの取り組みに加え、別海町自治基本条例で定めた制度を推進いたしてまいります。具体的には、町民参加と協働を推進するためパブリックコメント制度の制定に向けて取り組んでまいります。また、この条例を飾り物にしないために、パンフレットの作成など町民への普及、浸透を図るとともに、庁内においても、別海町自治基本条例マニュアルを作成し、制度の活用を推進します。

これらの取り組みを進め、今後も自立の道を歩むための財政構造の構築を視野に入れながら、第６次別海町総合計画に掲げた将来像である「笑顔あふれる豊かさ実感のまちべつかい」を目指し、まちづくりの主役は町民の理念のもと、協働のまちづくりを推進し、町民の皆様方の声を反映した行政の推進に全力で取り組んでまいり所存であります。

以上、戸田議員の質問のお答えとさせていただきます。ありがとうございました。

議長（渡邊政吉君） 戸田議員。

９番（戸田博義君） ただいま町長から、丁寧な御回答をいただきました。詳細については次期選挙の結果、政策を、また再度マニフェストを提出するということでございます

ので、それを楽しみにしておきたいと思います。

基幹産業の育成といいますか、保全対策は、地域住民、町民の生活対策であります。基幹産業として、ここは1次産業ですから、これが崩壊しますと、別海町は消滅すると。そのような危機に瀕している状況下にあるように思います。いわゆるF T A、E P Aも乗り越して、一挙にT P Pに進まなければならない理由がどこにあるのか。まず、国内の農業を含めて1次産業のきちんとした制度、政策を実行してもらいながら、これを論ずるということでは、他国の、いわゆるいいえじきになってしまうと。みずからそこに飛び込んでいって、どんな成果が期待できるのか、ちょっと不思議な国の体制になったものだなと思っております。

少なくとも、我々生きるために、どんな政策がとられるのか、行政と議会が一体になった取り組みを進めていかなければならないと思います。我々もしっかりその辺を勉強しながら、行政とともに協力してまいりたいと思います。

地域産業が崩壊すると一気にすべてが崩壊するということは紛れもない事実でございます。ひとつ政策に傾注していただきたいと思っております。

それから、医療の問題に、これは別海町立病院を中心とした、いわゆる医療ゾーンの確立でございますけれども、弱者に優しい、強者には厳しく、そういう考え方でひとつ町民に対する医療、福祉を中心とした政策をとっていただきたいと。これは別海町の中心となる病院を、行政のきちんとした経営体制の確立を前提としてお願いするわけでございますけれども、いかんせん、ともすれば弱者切り捨て、そういうような現象に進んでしまうと。制度の問題は、これは命題でございますけれども、低所得に悩む方々、それから仕事につけない方々、当然所得はないわけでございますから、いろいろな方策、財源を駆使して、ひとつ弱者に優しいまちづくりをしていただきたいと思っております。

ともすれば、今までの傾向の中で、利益の上がる公共事業を主体とした企業がどれだけの発言をしてきたのか、これは明白なことでございますけれども、これからは公共事業の時代でなくなるということでございます。公共事業とは、町民のためにある事業を公共事業というわけでございますけれども、税を使った公共事業がどれほどのことなのかと。基本的なインフラの整備だとか、そういうことは当たり前のことでございまして、それが町民みんなに納得のできる、理解のできるような政策をひとつつくり上げていただきたいと思っております。ともすれば、強者が強者の理論で町を支配する、行政を支配すると、そういうことになっては大変なことだと思いますので、その点もひとつよろしくお願いをいたします。

それから、ちょっと長くなりましたけれども、町長2期目の出馬に係る質問については、前回、9月14日開催の定例会で質問の予定でございましたけれども、ちょっとアクシデントがございまして、ドクターヘリに救われたということでございます。ドクターヘリの制度をつくられた方々には大変ありがたく感謝する次第でございますけれども、以前、公明党の議員の方がドクターヘリにかかわる意見書を議員発議で出されました。そのときに、一番最初に賛同者になった思い出があります。その後、何度か議員発議がされて、このたびドクターヘリがようやく動きまして、700件もの運行をしたと。別海町ではもう既に50件以上の方々が救われたと。その仲間に私が入ったわけでございますけれども、町としても高額な負担をされている、その中で私も命を救われたと。大変感謝している思いでございます。

有料か無料かという議論は別にいたしまして、そのとき、そういうことで皆さんには大

変御迷惑をおかけいたしました。この場をもってお礼を申し上げたいと思います。

余り長々と質問をしているわけにもいきませんので、大体予定の時間30分が経過いたしましたところで、私の質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

議長（渡邊政吉君） 以上で、戸田憲悦議員の一般質問を終わります。

それでは、ちょっとここで10分間休憩します。

午後 1時31分 休憩

午後 1時40分 再開

議長（渡邊政吉君） それでは、休憩前に引き続き、一般質問を再開いたします。

次に、8番松原政勝議員、質問者席にお着きください。

なお、質問は一問一答方式でございます。

8番（松原政勝君） 質問に入る前に、ちょっとこんなことを話してみたいと思います。

いつもその年を象徴する一文字の漢字が京都の清水寺で書かれるわけですが、ことしは「暑」という、暑いという字が書かれたそうでございます。これはやっぱり1年間猛暑の中で、日本列島各地でさまざまな影響を与えたと、このようにも話しております。

また、先日、これはインターネットでとったのですが、気象台発表によりますと、ことしの8月に記録的な猛暑となり、海面水温が平年より高い状態は9月中旬まで続き、下旬に多少縮小したが、その傾向は10月上旬に入ってもおさまりがつかなかったと。低気圧や前線が通過して、10月に入ると日照時間が少なくなるわけで、その影響で、北海道の西側を除いては依然として高い水温が続いたと。特に10月中旬以降は風が弱い日が多かったこともあって、海面水温は平年ほど低下せず、平年より3℃以上高かった海域も見られるという、非常にことしは猛暑のために海水温が10月下旬まで下がらなかったという、このように気象台から発表されております。

それでは本題に入ります。

私は、きょうは2点の質問をさせていただきたいと思います。

まず1点目としまして、別海町水産業の振興推進についてということで、きょうの補正予算でもいろいろ御質問の中でそういう町長のほうから答弁もございましたし、また、先ほど戸田議員からの基幹産業についての答弁もございました。重複するところがあるかと思いますが、ひとつお聞きいただきたいと思います。

別海町の主要漁業であるアキサケ漁は、漁期開始前には昨年を上回る回帰予想が出て期待をしておりましたが、例年にない猛暑による海水温上昇のせいか、過去25年の中でも類を見ない不漁で終了しました。平成16年以降、別海町のサケ回帰は大きな変動を繰り返しております。

過日の議会と町民との意見交換会の中でも、町民から、サケ漁は別海町の太宗漁業であるが、つくり育てる漁業として、町または漁協は貝類の根付け資源にシフトしていくべきではないかと、そちらにだんだんだんだん力を入れていくべきではないかと、そんなような御意見もありました。これは水産業に対する心配と熱い思いの意見であったと、このように受けとめております。

別海町の1次産業の一角として推移していくために、水産業を推移していくためには、

町は水産業の振興をどのように支援していく考え方があるか、まず、町長の考え方をお伺いしたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） 松原議員の御質問にお答えをいたします。

まず、つくり育てる漁業を推進することについてということでございますが、私の行政報告の中でも、先ほど触れておりますが、本年のアキサケ漁は大変な不漁で、深刻な状況となりました。それによりまして漁家の皆様には大変な御苦労があることと想っているところでございます。

本町の漁業につきましては、地域経済を支える基幹産業の一翼を担う重要な産業でございます。長年にわたって取り組んでまいりました、つくり育てる漁業や資源管理型漁業の確立によりまして、資源の状況は比較的安定をいたしておりますが、将来にわたる良質な水産物の水揚げ確保など意欲と希望を持って取り組むことのできる漁業環境づくりや、地域の特性を生かした沿岸水域の高度利用による資源の維持増大対策が不可欠であると考えております。

このために、各漁港整備を初め、種苗育成施設の整備、また魚介類の種苗放流、移植放流、有害駆除等の漁場の造成、整備など積極的に支援してまいりましたし、今後ともこれらを推進してまいりたい、そのように考えております。

また、枯渇的な状況にありますシジミにつきましても、現在実施しております人工種苗の生産試験、また試験礁などの検証を行い、将来には新たな漁場造成や種苗生産施設などの整備を検討してまいりたいと考えております。

いずれにいたしましても、つくり育てる漁業や資源管理型漁業の推進を基本として、衛生的な漁港環境の整備を初め豊かな漁場づくりに努め、魅力ある漁村づくりを目指してまいりたいと考えております。

また、先ほどもサケ漁の不漁ということで、考えてみますと、ここ数年間、徐々にといえますか、ことしは極端でございますが、徐々に捕獲量が減ってきているという状況でございます。そういう中で今回の不漁ということでございますので、当然、これらの原因をまずしっかり突きとめて、そして、それらにどう対応していくか、そのことを今後ともしっかり考えていく必要があるということだと考えているところであります。

いずれにいたしましても、漁協の皆さんと今後とも十分協議をしながら、つくり育てる漁業を初め、漁業の振興を図ってまいりたいと考えているところであります。

以上であります。

議長（渡邊政吉君） 松原議員。

8番（松原政勝君） 今までも町は地域振興、水産振興については、各漁協といろいろ計画を協議されて、実施されております。私は、この振興については、今、町長がおっしゃってございました、確かにそうでございますが、できるものであれば、サケはサケで、これは全道組織でやっておりますので、これはうちの組合とか野付組合だけというわけにいかないわけです。これは全道管内組織でやっているわけで、その中に放流計画があったり、捕獲計画があったりということでございます。

サケの不漁については、先ほど申し上げましたように、ことしはこういう異常気象で、高水温で、沿岸に寄らなかったのかなと、こういうことで私たちはあきらめようとしているのですが、これが何かの原因で来年も不漁になるかということをお心配すると、非常に先行きが不安なわけでございます。ことし1年の一過性であってくればいいなと、このよ

うに思っているわけでございます。

それで、先ほど私が冒頭に申し上げましたように、町民の中でも、安定的に漁業をしていくためには、もちろん魚も大事だけれども、貝類を初めとしたそういう根付け資源をもっともっと力を入れてやっていくべきだと。決してそれはやっていないわけではなくて、これは以前から根付け資源には大きなウエートをかけてやっているわけです。その成功のいい例としてはホタテ漁業があったり、アサリ漁業があったり、ホッキなんていうのは、北海道の中でも苫小牧を抜かしては別海の地区というのは非常に量が揚がるということで、そういう点では、本当に貝類の資源も恵まれているわけでございます。

さらに、いま一つ、私も漁協に申し上げているのは、今あるアサリ漁場をもう少し今の1.5倍ぐらいにふやしたらどうかと。漁場がつかれないのなら別だけれども、漁場をつくれる、要するに人工礁をつくれるのであれば、もっともっとそういう礁をつくって、そこにアサリを放流して、価格のいいときに、安定的にそういうものを揚げる方法ができないのかと、こういうようなことを私は申し上げているわけで、この考え方について、町あたりは、恐らくこれは町独自の仕事ではないと思います。これは道とかかわりのある仕事だと思うのですが、こういう漁場整備、さらには、ふやしていくという考え方についてはいかがなものでしょうか。

議長（渡邊政吉君） 産業振興部長。

産業振興部長（飯島孝二君） お答えいたしたいと思います。

非常にことはサケが不漁ということで、貝類、そういったものにシフトしたらということもあります。ホタテについては、ことしについてはアキサケと違まして値段もいいということで、ことしはホタテに助けられているのではないだろうかというような状況もあります。

そういう面では、ホタテの種苗放流だとか移植放流、あるいはホッキの移植放流、あるいはアサリの漁場造成、あるいは移植放流、今までもそういった根付け資源につきましてもいろいろ町も支援してまいりました。また、アサリの漁場についてももう少し拡大したらいいのではないだろうかとか、そういうような意見も非常に聞いておることは事実でございます。その辺につきましては、資源の拡大もいいですけれども、そういう漁場が、適切な漁場がしっかりとあるのかどうか、そういったことをもう少し調査をしなければならんと思いますけれども、余り漁場を広くし過ぎてほかのものに影響を与えても困るということもあります。

そんなことも考えながら、今後、漁協の方々と、また漁業者の方々と、その辺、調査結果を持っている漁協もございますので、そういったことも踏まえて、今後いろいろお話聞きながら、協議しながら、その辺についても今後の課題として考えていきたいというふうに思っています。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 松原議員。

8番（松原政勝君） ただいま産業振興部長が答弁されました。ぜひそういうことで、今言われましたように、私が申し上げてすぐできるものでもないし、組合が考えてもやっぱりいろいろな予算の面もございしますが、もし調査とか、そういうことで可能な場合には、町は支援していただくということが、約束というよりも、そういうことができるかどうか、御答弁願います。

議長（渡邊政吉君） 産業振興部長。

産業振興部長（飯島孝二君） 今の場所で将来的にこうします、それを約束するという事は当然私のほうからできるものではございません。財政の問題もありますし、いろいろな問題もあります。

ただ、今もそういったものに対して支援もしております。そういった面では、今後そういう拡大なり、根付け資源について、漁業者とともに1次産業のためにということであれば、今後いろいろな方策を考えながら、そういった方向にもっていきたい、そういうふうに我々も検討していきたいというふうに考えております。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 松原議員。

8番（松原政勝君） ぜひ、そういう考え方を持ってこれから対応していただきたいと、このように思います。

次に、2番目に移りたいと思います。

世界的に温暖化が進む中で、別海町の、これは産業、水産ばかりでなくて、農業、それから水産、そういう産業を守るために、目に見えないような温暖化がどんどん進んでいるわけですが、その対策として、町として具体的な何か対策の方法を考えておられたら、お聞きしたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 産業振興部長。

産業振興部長（飯島孝二君） 松原議員の温暖化についてでございますけれども、非常に温暖化というのも幅が広くて大変でございますけれども、今、町が進めているような話をちょっとさせていただきたいというふうに思っております。

いずれにしても我が国においては、京都議定書の目標を確実に達成するとともに、中長期的にも温室効果ガスの排出量を削減することが求められているのは事実でございます。

温室効果ガスの約9割はエネルギーを起源とする二酸化炭素と言われており、一層の地球温暖化対策の推進も求められております。

こうした状況を踏まえ、近年、エネルギー消費量が大幅に増加している業務部門と家庭部門におけるエネルギー使用の合理化を一層推進することを目的に、これはエネルギーの使用の合理化に関する法律というのがございます。通称省エネ法と言われておりますけれども、これが昭和54年に制定されておりますけれども、そういった温暖化の関係がございまして、平成20年5月に、この省エネ法が改正されてきております。

これまで一定規模以上の大規模な工場、事業場に対してエネルギー管理義務を課しておりましたが、今回の改正によりまして、事業所単位から事業者単位への義務づけられることにより、地方自治体においても企業と同様に、地方自治体が管理する施設全体のエネルギーの管理を行うこととなってきております。

これは今後とも町が進めていかななくてはならない問題でございますけれども、この省エネ法の改正に伴いまして、別海町役場、町が管理するすべての施設でございますけれども、これのエネルギー使用量の把握をしたところでございます。役場部局のエネルギー使用量の合算数値で、通称町長部局と言っているのですけれども、こちらでしている施設の合算値で原油換算で3,506キロリットル、もう一つは教育委員会部局でしております施設については1,635キロリットルというような数字が出ております。

今回のこの省エネ法に基づいては、1,500キロリットル以上のそういった消費を持っている事業者に対しては、今回の改正の法律で定められておりまして、今後いろいろな施策をとっていかななくてはならないというふうになっています。

ということから、町長部局と教育委員会にエネルギーの管理の義務が課せられたということで、管理体制や管理標準による管理などを行い、エネルギーの使用に関する目標として、中長期的に年平均１％削減の努力義務が課せられております。その手続を今後進めていくことにしておりますけれども、それとともに平成１９年度に策定した別海町地球温暖化対策実行計画とあわせて、今後計画的に取り組んでいこうというふうにしているところでございます。

そのほかにはまた、平成２１年度から、町単独事業でありますけれども、太陽光発電の補助金交付もしております。平成２０年度まで町内においては２４世帯程度の普及状況でありましたけれども、今回、国の補助事業、あるいは余剰電力の買い上げ、そういったことが始まったということもありまして、別海町の補助制度もつくったということがありまして、平成２１年度においては４２世帯が太陽光発電システムを導入した。ことしにつきましては、現在３９世帯が導入するということになっております。そういった面で、非常にここ１年で、太陽光発電システムを設置する町民の皆さんが多くなってきたというような状況でございます。

いずれにしても、今後とも新エネルギー活用による町民みずからの低炭素社会への取り組みを支援しながら、あるいは、そういったＰＲもしながら、環境に負荷の少ないエネルギー地産地消のまちづくりを進めていきたいというふうに考えているところでございます。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 松原議員。

８番（松原政勝君） 今、部長がおっしゃいましたのは、確かにそういう町としての取り組みだと思います。ＣＯ₂の排出についてはもちろんそうでございます。

ただ、私が今聞いておりますのは、要するに、どんどんどんどん、年々、目には見えないのですが、感じる温暖化というのは、やはり夏になると猛暑であったり、冬になれば特別なしばれが続いたりということで、非常に寒暖の差が激しくなる。その中で、私いつも道路を走って思うのですが、夏の真ん中になると、きょうも議員の方々、農業のプロばかりですから、私が申し上げるのはあれですけども、牛が放牧されていると、たしか畑の境というか、境界伝いに木があったら、そこに牛が群れになって日陰を求めていると。そういう光景がよく見られるわけです。私は、そういう光景を見ると、別海町でもやらなければだめだという、そういうものはやっぱりあるような気がします。産業のまちですから、やはり牛を育て、牛で仕事をしている人たちは、少しでも猛暑に耐えられるような、そういう建物もそうだし、もちろん畑だって、どんどんどんどんこまでも続く草ばかりの畑ではなくて、やはり畑の境には木があったほうがいいのではないかと、そのように思うわけです。

サケの不漁がさっきから話題になっておりますが、これは何が原因か私もわかりません。サケの人工ふ化は１００年以上も続いているのですから、今さらどれがどうかこうとかという議論は、私は本当にナンセンスだと思うのです。何かやっぱりサケが寄らなかったその原因があると思うのです。

ただ、そういう中で、先日も尾岱沼の町民との会議の中でも、漁業者の方がこう言っていました。サケをふ化場でつくって上流で放流したときには、やはり河畔林がなければだめだと。河畔林があって、それに虫がついて、そして川に落ちる。それがえさになって、そういう川というのは少しうっそうと薄暗いところにあるべきものだ。畑の縁まで草地

になってしまって、もう一度河畔林を、今までもやってきました、今までも河畔林はつくってきたのですけれども、さらに河畔林を進める必要があるのではないかと、そういう御意見もありましたのですけれども、この点について、町長何かお考えがあったら伺います。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） お答えを申し上げます。

いわゆる河畔林含めて、酪農家の皆さんの牛の日陰のための植林でありますとか、そういうことも当然、CO₂の吸収源でもあります林であり、森であり、木でありますから、これからそういうこともしっかりやっていくとともに、猛暑対策にもなりますので、そういうことが必要だと思いますし、これから放牧もまた再び考え直されております。そういうところでありますので、特にそういう日陰のための林というものが必要になってくるだろうということでもありますし、そういう方向にするべきだとも思います。

特に河畔林については、河川環境の保全を含めて、また海の、いわゆる沿岸の海水を含めて保全のためにも、やはり河畔林をしっかりこれからも計画的にふやしていくという努力をさらに進めていく必要があるだろうと、そのように思っております。

そのための土地の確保でありますとか、そういうことについてなかなか、植えたい気持ちはいっぱいなのですが、土地がないという状況も片やあるところもありますので、ぜひ、河川の流域で土地の所有をされている方の皆さんのまた理解もいただきながら、しっかり河川の保全、そして、いわゆる海を含めた水の保全を含めて、これがまさに、今急激に減ったサケに、原因がはっきりはしませんが、そういう原因もあるうかと思しますので、いずれにいたしましても河川環境の保全をこれからもしっかりやっていく、それが我々としては漁業の振興につながるものだと考えておりますので、これからも努力を続けてまいりたいと考えております。

議長（渡邊政吉君） 松原議員。

8番（松原政勝君） そういう土地がなければ、これは大変な話ですけれども、もしそういう所有者と話がついて、河畔林が進められるのであれば、さらに進めていただきたいと、このようにお願いするところでございます。

次に3点目でございます。

漁業の経済力強化に向けた補助事業の導入は考えておりませんか。例えば、漁船建造資金の補助だとか、新規漁網への補助等、これは今まで水産にはこういう補助事業はございません。ぜひ、道とタイアップして、その制度をつくれるのであれば、町長は政治的にも道といろいろ協議をしてつくっていただきたいと、このように思います。

特に、私たち見ていますと、農業分野については非常に数多くの補助事業の政策があるわけですが、水産というのは、政治力の弱さなのかどうか分かりませんが、ほとんど漁業にはそういう政策がないと言ってもほとんど等しいわけでございます。ただ、最近では燃料の高騰にあって、一時、そういう燃油高についての一部エンジン等の補助がございましたのですけれども、それもそのうちに終わるだろうと、このように言われております。

こういう事業をもしできるのであれば、今、私たちのこの漁業を見ていますと、担い手に跡を継いでくれと、後継者に跡を継いでくれと言っても、今の状況であればなかなか喜んで跡を継いでくれる状況にないことも事実でございます。ぜひ、水産を続けていくためにも、ひとつ、町のそういう水産に対する何かいい制度をつくってもらえるのかどうかを

含めてお伺いしたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） 御質問にお答えをさせていただきますが、漁船、また漁網等、購入などの初期費用は極めて高額であると思っております。また、維持管理費にもかなりの経費を要することも承知をいたしているところでありますが、現在まで国の補助制度においては、共同利用、漁協などの公共性のある団体、これによる船舶の建造などに限られております。また、個人所有については各種資金融資制度を活用する、そのようなことであります。

町といたしましては、この厳しい漁業情勢から、関係機関と協議をしながら、補助対象の見直し、また要件の緩和など、今後、国、また道に要望してまいりたいと、そのように考えているところであります。

議長（渡邊政吉君） 松原議員。

8番（松原政勝君） そういう制度がもし水産に向けられるのであれば、大変助かるかと、このように思うわけです。ぜひ御努力をお願いしたいと思います。

2点目に入る前に、ちょっと町長に聞いていただきたいのですが、先日テレビで見たのですけれども、「恵環豊郷」という、これは四字熟語みたいなのですが、恵まれる環境で豊かなふるさとという、こういう字でございます。これが四つ漢字を合わせております。これは恵まれる環境に豊かなふるさとということなのですが、だれしも町民皆さんそのように願っていると思います。やはり経済が保たれて、福祉が充実し、教育が充実し、そして自分のふるさがいつまでもうまくいってくればいいなと、このように町民皆さん願っているわけでございます。そういう意味からも、ぜひ、ひとつこういう水産も含めて、1次産業をしっかりと支えていただきたいと、このように思うわけでございます。

それでは、次に2点目に入ります。

新防衛大綱による道内駐屯地の見直しについてということでございます。

政府は、年末に改定する防衛計画の大綱について、南西諸島防衛の重視を打ち出す方針を固めたと報道されております。

中国海軍の台頭や沖縄県尖閣諸島沖での中国漁船衝突事件を背景に、従来の全国均衡配備からの転換を鮮明にするなどの内容が言われております。今後、道内駐屯地の縮小など他部隊の配置見直しが予想されます。

政府の安全保障会議で防衛大臣は、国防に対するメッセージとして、新時代に向けたものをつくると発言され、南西重視の方向性を確認したことを示唆したと報じられております。

別海町には、駐屯地、さらには全国一大きな演習場があります。このような大綱改定について、水沼町長は町長であり、自衛隊協力会の会長として、防衛省に対してどのような要請活動をしておりますか、お伺いいたします。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） 松原議員の質問にお答えを申し上げます。

まず、平成16年12月の新防衛計画大綱、これの決定に伴いまして、北海道においても陸上自衛隊の人員、装備等が削減されたことは議員も承知されていることと思っておりますが、昨年9月の新政権発足時に前鳩山首相は、昨年12月中に防衛大綱の見直し、これを行う姿勢を示したところですが、わずか3週間後に今年末まで先送りをするという決定を発表しました。本年2月18日、みずから主宰する「新たな時代の安全保障と防衛力

に関する懇談会」、これを設置し、8月27日に懇談会からの答申を受け、今月中の決定を目指していると承知をしておりました。

この間、全国基地協議会、北海道自衛隊駐屯地等連絡協議会を通じまして、自衛隊体制維持を求める要請活動を行ってきたところでございます。

5月14日には、北海道の自衛隊体制維持を求める総決起集会、これが開かれたところではありますが、当町といたしましては、北海道における自衛隊の体制維持を求める署名を北海道自衛隊駐屯地等連絡協議会を通じ国に提出いたしました。

その後、11月25日に北海道基地協議会として基地関係予算の確保に向けた要望運動を実施しておりますが、11月29日に北海道自衛隊駐屯地等連絡協議会が防衛計画の大綱見直しに関する提言に係る緊急声明、これを発表し、12月2日には北澤防衛大臣に対し、この提言内容について要請を実施したところでございます。

なお、新たな防衛計画の大綱は、次期中期防衛力整備計画とあわせて、あすにも閣議決定される見通しであると報道されているところでもございます。

いずれにいたしましても、この厳しい状況等を認識いたしまして、今日まで積極的な要請活動を行ってきているところでございます。

議長（渡邊政吉君） 松原議員。

8番（松原政勝君） 別海駐屯地には、私の調べた4月現在なのですが、309名の隊員が配置されていると。家族も含めると約500名余りになると、このように調べたところでございます。まちづくりも含め、地域経済にも非常に大きな影響を与えていると。本当にこの駐屯地があることによって、また地域は活性化されていると、このように思っております。

町長は協会の会長でもあり、また、町長としては、恐らくこの矢臼別演習場の責任ある立場にあると思います。

北部方面隊がピーク時には5万3,000人の隊員が配備されておりましたのですが、平成22年度、ことしになると3万8,000人、約1万5,000人が削減されたと、このように言われております。このことにより北海道の地域の安全と安定、さらには地域経済や地域社会に大きな影響を与えていることも事実でございます。

全国組織でつくられている全国基地協議会などと協議し、特に、北方防衛をさらに強化していくべく要請をすべきと考えますが、町長の考え方をお伺いしたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） 御質問にお答えをいたします。

北方防衛を強化していく要請をすべきということでございますが、北日本地域の安定的な戦略環境の構築と地域の安全と安定、さらには、これまでの北海道が国の防衛対策に果たしてきた役割や実態、特に自衛隊とともに共存共栄してきた半世紀以上の長い歴史の中で、北海道が構築してきた自衛隊にとって必要不可欠な防衛財産の価値を十分に認識され、北海道における自衛隊の現体制を堅持されるよう、また、国内最大の矢臼別大演習場を管理する別海駐屯地の隊員の増員と施設の充実に向け、これからも全国基地協議会、北海道自衛隊駐屯地等連絡協議会を通じながら、国に対して強く要請をしていく必要があると考えております。

以上であります。

議長（渡邊政吉君） 松原議員。

8番（松原政勝君） 11月にロシアの大統領が国後島に入り、現地を視察し、現在住

んでおられる島民からいろいろな要請、要望があったということが報道されているわけでございます。

きのうでしたか、今度はロシアの副首相というのですか、この方が国後島に入られて、さらにはいろいろなことを調査されたという、本当に、片方で、南西諸島の尖閣諸島の中国漁船の衝突事故ばかりが連日報道されて、もうこの北方のほうには何も無いように思われているわけですが、皆さん御存じのように、北海道というのはずっと国境沿いなのです。野付半島から船で行くとわずか20分でその境界線を越えなければならないという、本当に近いところに位置しているわけです。

冷戦時代は、要するに北海道に重きを置いて警備されておられたのだと思うのですが、今、冷戦が終わってからは、どんどんどんどん皆南西のほうにシフトされていくと。特にことしの場合は尖閣諸島の問題があって、向こうにそういうような北朝鮮の問題もあって、そういうことがどんどんどんどん話が向こうに移っているわけでございます。

でも、片方で、やはりロシアは我が国固有の領土だという、あの国後、択捉、歯舞諸島、色丹の四島を、日本国ではそう言っているのですが、もうそれはお構いなしにどんどんどんどん入ってこられているという。事実、実行支配化をしようとしているのが現実でございます。

そういう意味からおいても、やはり私は別に抑止力とかそういう問題でなくて、当然北海道にも、やはりこの自衛隊というものを削減するのではなくて、従来どおりの配置をしておくべきだと、このように考えているわけですが、その辺について町長はどのようにお考えでしょうか。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） お答えを申し上げます。

ただいま松原議員のおっしゃるとおり、いわゆる北から南にという形で防衛体制がシフトしていくという状況が今考えられておりますが、しかしながら、中国と同様、ロシアについても、年間10%以上の防衛費の増強を今日まで図ってきております。したがって、私どもとしては、これ以上の北海道の自衛隊の減員をするということのないようにということで、再三、国に北海道の自衛隊体制の維持ということで要請をしてきたところであります。

現在、全体で1,000人程度の削減を見込んでいるということも伺っておりますが、その削減が北海道から削減されることのないようにということを我々も願っているところでありますし、まさに今回のメドベージェフ大統領の北方領土への訪問、また、副首相がきのうですか、訪問したという話も聞いております。まさに、元島民の皆さんの心を逆なでするような、本当に遺憾にたえないことでございます。

北方領土の早期返還を含めて、また、ロシアを含めた軍事力の増強というものも当然国を守る防衛力の中にしっかりと想定し、また北海道で自衛隊の皆さんがそれぞれ大変意義深い訓練が行われている、そういう非常に貴重な重要な位置を占めるのが北海道の演習場でもありますし、そういうことを総体的に考えていただいて、これ以上の減員、そして体制の維持をしていただけることを今後とも積極的に要請をしてまいりたいと、そのように考えております。

議長（渡邊政吉君） 松原議員。

8番（松原政勝君） ぜひ強力に、そこら辺を要請していただきたいと思います。

これは、先日の北海道新聞の記事なのですが、防衛庁時代に自衛隊部隊を日本全国に均

等配分するという、基礎的防衛力構想という、そういう構想を持って配置したのですが、ことは既に自衛隊が機動的に対処できる動的防衛力という、こういう考え方、言葉を使いながら、その配置を変えるというのですか、そういうふうに言われております。そうすると何か北方の防衛というのは、だんだんだんだん自然に削減されていくのかなと、そういう心配されるわけですが、今、町長のお言葉に、これからも強く要請していくという考えを持っておりますので、基地協議会とか、駐屯地の会とか、そういうところでぜひ防衛省に強く要請をしていただきたいと。町長もですけれども、また議長も、要するに基地協議会の役員でございますので、ぜひ含めて、ひとつ別海町の駐屯地、それから削減されないようお願いを申し上げまして、私の質問を終わります。

どうもありがとうございました。

議長（渡邊政吉君） 以上で、松原政勝議員の一般質問を終了いたします。

ここで、10分間休憩いたします。

午後 2時25分 休憩

午後 2時35分 再開

議長（渡邊政吉君） 休憩前に引き続き、一般質問を再開いたします。

それでは次に、2番沓澤昌廣議員、質問者席にお着きください。

なお、質問は一問一答方式でございます。

2番（沓澤昌廣君） それでは、質問させていただきます。

草地改良事業を今度どう推進すべきか。

農林水産省は、2011年度概算要求で、中山間地域等直接支払制度見直しに対して、緊急声明を発表しました。2010年度に始まった第3期対策の最中にもかかわらず、急な方針の転換を打ち出した。現場には十分な説明が必要なはずである。

今までは、おおむね2分の1以上を集落の共同取り組み活動に充てるよう指導してきたが、今回は、集落で行う共同活動については農地・水保全管理支払いで行うことを基本とし、農業者への配分が2分の1以上になるよう指導しますと、農水省が示した2011年度の概算要求の文章が問題になっているのであります。

別海町集落共同活動では、2010年度は9億4,500万円で、うち全町集落共同分25%、サブ集落共同分45%、サブ集落個人配分が30%となっており、70%が共同取り組みとなっております。

2010年度国の予算で基盤整備事業、草地改良事業が62%カットされ、今後の草地整備に大きな障害にならないよう自家更新を奨励し、牧草の種子と肥料を助成して、草地改良を検討し、2011年に急な方向転換をされたのでは。

6万3,000ヘクタールの別海町の草地面積です。1年間で8,000ヘクタールの更新を目標とすると8年かかります。今後、どう草地更新をしていくか。国の基盤整備が大幅に減らされ、中山間地域等直接支払制度が変更されたのでは、草地整備が大幅におくれてしまいます。

しかも、12万頭の乳牛規模は、年々離農者が続出して、個人経営は大型化してきています。別海町の規模は、平均で乳牛は80頭、育成牛が70頭で、乳量は600トンまでの経営だと思います。個人経営でも1,000トン以上になると実習生を1名から2名使って、1日の労働時間は8時間以上となり、牛舎での仕事が一年じゅう、毎日の日課になっていると思います。そのために牧草のサイレージは、コントラクターで二、三日で終

わる委託作業、秋の堆肥散布やスラリー散布も委託作業になっているのが現状であります。そのために草地更新して、草地改良を実施していく時間がとれないというのが現実の姿であると思います。

その手段として、基盤整備事業を利用してきましたが、62%カットになり、今年度の別海町の基盤整備は1,000ヘクタールと前年より400ヘクタール減少しており、来年度はまだまだ減少すると思います。

酪農は、乳価にチーズ向け、クリーム向け、飲用向けと多用途のために、来年度の乳価は全く決まっておりませんが、いずれ年内か来年3月までには、決まった予算の中で配分が決定されると思います。

そこで質問いたします。

今年度の中山間地域等直接支払制度で草地改良事業を進めてきておりますが、来年は個人配分が5割以上、集落共同配分が5割以下となっています。別海町の草地改良6万3,000ヘクタールを今後どう草地更新を進めていくのでしょうか、お聞きいたします。

議長（渡邊政吉君） 産業振興部長。

産業振興部長（飯島孝二君） 沓澤議員の質問に答えたいと思います。

いずれにしても、沓澤議員が言われたとおり、非常に農業関係の情勢、政策的にも非常に転換期に来ているということで、言われていますように中山間事業についても突如と共同取り組みの部分がなくなりそうな感じがあります。詳細な内訳については、我々のほうには細かい部分はまだ来ておりません。そういった面でも非常に難しいものがありますし、また、そういった面で農地・水と保全事業に個人配分をシフトするような話も来ております。

また、国では、戸別所得補償制度、そこがどういうふうになっていくかというのわかりませんし、また、基盤整備事業については、言われたとおり減額されてきたということで、今後どうしていったらいいのかと、我々も非常に不安を持っているところでもあります。

そういった面で、今後、基盤整備事業をどうするのかということでございますけれども、今、我々が進めているものについては、まず一つには道営草地整備事業、それから畜産担い手育成総合整備事業、公社営事業と言っておりますけれども、この二つを草地整備事業の根幹ということで努力して、または、その事業費の増額に努めてきたというのが実態でございます。

そういったことで、今年度の実績を申し上げますと、道営事業で8地区行っております。また、畜産担い手事業でも4地区がそれぞれ町内で進められているところでございますけれども、これも5年ぐらい前から1地区5億円程度に、その前まではかなりの倍以上の地区事業費がついた時代もあります。天井知らずについた時期もありましたけれども、最近はそのように国のも事業も縮小傾向になって、1地区5億円程度というような地区取りにもなってきていると。非常に草地整備には難しい部分が出てきているのも事実であります。

そういった中で、道営8地区の、畜産担い手で4地区で、1,240ヘクタールしかできていないというのも実態です。また、平成23年度の今の計画でいきますと、1,515ヘクタール、こんなようなことになっております。

いずれにしても、これを基本として、今後ともいろいろな面で増額してもらうことを求めていかなければならないというふうに思っています。

また、中山間事業についても、今、農業生産活動の中で、農用地の維持管理となる草地更新ということで、共同取り組み事業の中でも実施されております。これが平成21年度でいきますと3,500万円程度ということですから、そう大した量ではないと思いますけれども、そんなようなことで、別海町の6万3,000ヘクタールの更新をどうするのかということも言われておりますけれども、大変厳しいなと思いながら、とりあえず考えられるのは、現行の補助制度ですね、道営事業、公社営事業、これを計画的に進めていくというのが第一番だろうと。これに対しては、いろいろな今後の要請活動とか、いろいろなことで増額してもらわなくてはならないということもあります。

また、中山間事業においても、簡易更新、表層攪拌というような工法で、あるいは作溝法、畝にして、土を切ってやっていく方法、そんなような簡易な更新方法も最近は出てきております。そういったこともやりながら、草地の基盤の長寿命化というのですか、そういうことに手だてをしていく必要があるかなというふうに思っています。

ただ、自家更新というのも、経営の中で自家更新というのをやっていけば一番いいのですけれども、沓澤議員言うように、農家も非常にお忙しいということもあります。そういった面で、やはり基盤整備事業費の減額になった部分というのは、増額してもらような方法をしていかなければならないなというふうに今のところ考えているところでございます。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 沓澤議員。

2番（沓澤昌廣君） それでは、もう一つお尋ねいたします。

この中山間事業の少なくなった部分を農地・水・環境保全向上対策で農水省は補完していくというコメントを出していますけれども、その点はどう考えますか。

議長（渡邊政吉君） 産業振興部長。

産業振興部長（飯島孝二君） これも緊急にことし言われてきたということで、先ほども言いましたとおり、その詳細なやり方というのについては、まだ出てきていない。今、道ともいろいろな協議もしていますけれども、来年どうするのだということも言っているのですけれども、道のほうにも細かい部分は来ていないということで、我々もどうしたらいいのかなというふうになっておりますけれども、ただ、そういうふうに言われているということは、農地・水・環境保全事業で共同取り組みでなくて、個人配分をそちらのほうでやって、中山間については共同取り組みの2分の1以内ですか、そんなようなことで、中山間事業は共同取り組みのちょっとしたことを、大きなことをやって、あと、そういう細かいことについては、個人配分的なものは全部農地・水・環境保全事業でやっていくような話なのでね。ただ、それが今、政府で言われている戸別所得補償制度とそういったものがどうリンクするのか。そんなこともいろいろ我々も考えていますけれども、その内容についてはまだ出てきていないという部分もあって、皆さんと一緒に協議する場もできない状況ですけれども、いずれにしても、この扱いというのは、今決定されているとは私は思っておりませんので、今後そういった事情もよく聞いていただいて、今まで5年も10年もやってきた中山間事業の大きな働き、共同取り組みという大きな取り組みを全体でやって、自分らのまちは自分らでやっていこうというような根もついてきているところでもありますので、その辺は十分意見が反映されるように、今後とも努力していきたいというふうに思っています。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 沓澤議員。

2 番（沓澤昌廣君） あくまでも、この話というのは予想になってしまうので、次のほうに移ります。

第2 番目として、基盤整備事業が6 2 %カットになり、町として今年度は1, 2 5 0 ヘクタールと、草地改良が大幅に減ってきております。また、草地が年々古くなってきますと、生産力も低下して、乳牛にも悪影響が出てくると思いますが、いかがですか。

議長（渡邊政吉君） 産業振興部長。

産業振興部長（飯島孝二君） 今おっしゃいますとおり、今後が不安でございますけれども、いずれにしても、計画的な補助事業による基盤整備を進めながら、予算等の減少対応につきましては、先ほど言いましたように簡易更新等、そういったことを含めて長寿命対策を実施していくということがまず1 点かなと思います。

また、草地基盤の経年劣化による収量の減少や品質低下を防ぐためにも、土壌診断、そういった適切な施肥設計に基づいた、有機肥料や化学肥料による土壌の活性化を促すことが必要というふうに考えております。そういう面では、堆肥づくりだとか、そういった基礎的なところを一生懸命やっていく必要がまずあるのだろうなと。そういった面では、関係機関だとか団体の皆さんとともに連携しながら、そういった努力をしてみたいなというふうに思っております。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 沓澤議員。

2 番（沓澤昌廣君） 議論をしても仕方ないのですけれども、やはり農家の草地更新、簡易更新でも何でもいいのです。やはりなるべく草地が新しくなるよう、そういう努力を今後ともしていただきたいなと、そう思います。

それでは三つ目に、農水省は現地の実態をもう少し把握して、農家の声を農政に反映してほしいと考えますが、この点は町長にお答え願いたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） お答えを申し上げます。

別海町につきましては、冷涼な気象条件のもとで、土地資源を活用した草地型酪農地帯として、良質な粗飼料の確保、これが不可欠なところであります。草地の持続的な維持管理が重要でございますし、また、輸入穀物飼料の高値安定などから、最近では、飼料用のトウモロコシの作付面積もふえてきております。飼料基盤全体の1 . 5 %ぐらいと聞いておりますが、また、自給飼料の向上に努めているところでございます。

また、別海町の土地の形態、これは河川が縦横に走る湿地型の土地が多くて、定期的に基盤整備と草地更新を行うことで、飼料畑としての機能を維持してきております。

こうした現地の現状について、ことしの5 月に国に対する中央要請時に説明をし、基盤整備事業の重要性につきまして説明をしてきております。また、農業・農村基盤整備事業の予算確保についても、7 月、1 1 月にも民主党副幹事長を初め農林水産省、国土交通省等の大臣、副大臣、関係省庁幹部に要請をしてきているところであります。

いずれにいたしましても、この別海町の特色ある酪農専業地帯でもございますので、ぜひ、その実態、そして地域の酪農の振興にどういったことが必要であるのかということを含めて、これからしっかり我々の声を国に届けるということがこれからの日本農業、我々の農業の振興について大変重要なことであると思っておりますので、これからもしっかり要請活動、また、いろいろな政策提言を今後とも積極的にしてみたい、そのように考え

ております。

議長（渡邊政吉君） 沓澤議員。

2番（沓澤昌廣君） 町長の答弁で尽きるのですけれども、やはり酪農のまちとして、今後とも別海町が発展するよう、町長の政治力を期待していきたいと思います。

それでは、次に移ります。

2点目は、環太平洋経済連携協定参加に反対ということで発表いたします。

TPPは10月1日の参議院、菅総理の所信表明演説の中で突然発表されたものです。11月13日、14日の横浜で開かれたアジア太平洋協力会議（APEC）で、TPPの参加を表明したい考えであったが、与野党や農業団体、関係議員から、国内農業が崩壊するとの異論が出て、来年6月をめどに参加表明の検討をすることで一応の決着がつきましたが、結論は先延ばしということになっております。

TPPに参加した場合、100%の関税の撤廃を目指すとしており、国内の農業は自給率が14%まで落ちてしまい、壊滅的な打撃を受けてしまいます。別海町の酪農でも、1,000トン以上で負債のない優秀な酪農家が残るぐらいです。現在、別海町の酪農家は800戸程度ですが、TPP参加の場合は、対策を考えなかった場合、112戸程度しか残らず、地域経済すら崩壊するおそれさえ出てきています。

そこで質問いたします。

政府は、自給率50%を目標にするとっておりますが、TPPに参加することにより自給率が14%に低下すると言われております。TPP参加と自給率50%以上の両立は非現実的と思いますが、いかがでしょうか。

議長（渡邊政吉君） 産業振興部長。

産業振興部長（飯島孝二君） お答えしたいと思いますけれども、このTPPにつきましては、もう既にすべての皆様がこの内容についてはわかり切っている話だなというふうに思いますので、私のほうからくどいことは言いませんけれども、いずれにしても、沓澤議員の言われるとおりだというふうに私たちも思っております。

貿易自由化と農業再生を両立させる包括的経済連携の基本方針を決めたことで、自由化と農業再生は両立はできないというふうに思っております。既に、そういったことを多くの関係者が指摘していることがマスコミ報道等でも言われております。当然、今の状況下の中でこれを進めるということは、別海町にとって、農業にとって、水産も同じですけれども、これは壊滅的な打撃を受けるというふうに、これはどこでもそういう話をしております。そういった面では、先日も管内の決起大会を開いたということにもつながっているかと思えます。

以上であります。

議長（渡邊政吉君） 沓澤議員。

2番（沓澤昌廣君） それでは、次に移ります。

農業の貿易自由化を考えた準備がないのに、来年6月までに財源の裏づけのない対策をTPP参加の根拠とするのは無責任な行為と考えますが、いかがですか。

議長（渡邊政吉君） 産業振興部長。

産業振興部長（飯島孝二君） お答えいたします。

このことにつきましても先ほどと同じように、1次産業を糧とする市町村では、多くの関係者が反対の意見を持ち、地域の崩壊を懸念しているところであります。先ほども言われたとおり、我が別海町においても、1次産業を基幹とするまちとしては、皆さんと同様

に危機感を持っております。そういった面では、無責任な行為ではなかろうかというふう
にまで言いたいような状況だというふうに思っています。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 沓澤議員。

2 番（沓澤昌廣君） それでは、3、4 は町長にお答え願います。

ＴＰＰは、別海町の酪農にとどまらず、地域の崩壊を招くおそれがあると考えますが、
いかがでしょうか。

もう一つは、別海町は酪農のまちとして、別海庁舎にＴＰＰ参加には反対の垂れ幕を掲
げるべきと思いますが、この点もお願いいたします。

これは私の一人だけの意見ではなくて、議員との懇談会の中で何人かの方に言われてお
りますので、よろしくお願いします。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） お答えを申し上げます。

沓澤議員のおっしゃるとおり、酪農、畜産及び水産業を基幹産業とする別海町におきま
しては、乳製品等の重要品目並びに主要水産物を関税撤廃されるということは、まさに壊
滅的な打撃となることが十分予想されます。地域経済の崩壊につながるのは明白であると
考えております。断固阻止に向けて、オール別海町として全力を挙げて、阻止に向けて努
力をしてまいりたいと、そのように考えております。

また、ＴＰＰの反対の垂れ幕を上げるべきという御質問でございますが、私どもも、ま
たいろいろな人から、それぞれしっかり町民の皆さんとともに一緒になって断固阻止をか
ち取っていくべきであるということのもとに、そういう御意見もいろいろ伺ってまいり
ました。早速、それをつくるために注文いたしまして、昨日ですか、それができ上がりま
して、庁舎の正面に今垂れ幕を下げさせていただいております。ぜひ、そういうことで、
全町民の皆さんが危機意識を持って、そして、そのうねりというものを全国民的な運動と
して取り上げていただけるように、我々も今後ともしっかり頑張っていきたい。

したがいまして、議員各位、また、それぞれ町民の皆さんにも、ぜひ御協力を心からお
願いをする次第であります。

議長（渡邊政吉君） 沓澤議員。

2 番（沓澤昌廣君） このＴＰＰ問題には、また2人ぐらいの議員が質問に立ちますの
で、私はこの辺でやめておきたいと思えます。

町長、本当にきょうはありがとうございました。

議長（渡邊政吉君） 以上をもちまして、沓澤昌廣議員の一般質問を終了いたします。

散会宣告

議長（渡邊政吉君） 以上で、本日の日程はすべて終了いたしました。

本日は、これにて散会をいたします。

なお、あすは、午前10時から一般質問を行います。

町長初め管理職、議員の皆様、御苦労さまでございました。

散会 午後 3時00分

上記は、地方自治法第 1 2 3 条の規定により会議の次第を記載したものである。

平成 年 月 日

署 名 者

別海町議会議長

議 員

議 員

議 員